聖法の道

10

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第8巻第10号　1964年10月1日発行

SEITO-NO-MICHI

聖徒の道

第八巻
第10号

1964年 10月号

表紙

横浜支部
田中健治兄弟の家族
前列4人と立っている子供

—もくじ—

予言者のことば 536
伝道部長メッセージ 538
質疑応答 544
新潟地震に際して 550
何故末日聖徒は神殿を建てるか 559
支部だより 560
扶助協会レッスン 566
系図の道しるべ 580
伝道部扶助協会会長メッセージ 583

大管長　デビド・O・マッケイ

もしも私たちが霊を向上させたいとねがい、この世とこの世のものよりも高く上りたいとねがうなら、あなたも私もイエス・キリストの実在を感じ取らなくてはならない。またあなたも私もイエス・キリストの使命がまがいものでなく本物であることをこころから悟らなくてはならない。

予言者のことば

秋の日に思うこと

大管長　デビド・O・マッケイ

★義の道と忠実の道と隣人に義務を尽す道とを選ぶ責任は一人一人の肩にかかっている。もしも彼がほかの道を選んでこの結果失敗と悲惨と死とを招いたなら、責められるのは彼一人である。

★忠実であることが、あらゆる進歩になくてならぬ原則であることは本当である。それは霊の進歩にだけでなくてあらゆる進歩にもなくてはならない。人間の進歩になくてはならぬのは忠実の原則についで自由意志の原則である。

★次の理想は永遠の真理である。すなわち個人の自由という権利を他人から奪わないかぎり、自分の生活を選ぶ個人的自由。誠実と公明な取引関係と、口頭の誓約も文書による誓約も破らないことと、神を信ずる信仰と隣人には多くの美点があることを信ずる信念。

★人生の真の目的は肉体の享楽や富の獲得よりもむしろ霊能の発達にある。

★今日という日は永遠の一部である。今日の自分は（すなわち今日自分のすること考えることは）、明日自分の経験することと、自分のすること考えることを主として決定し、また来世における自分の地位を定める役に立つであろう。

主なる神はまことに現においでにならない、はるか離れたところにある力ではない。主なる神は親切な「父」にましまし、神の子らの福祉を心にかけ、彼らの呼び声をいつも喜んで聞きこれに答えたもうお方である。このお答えは、賢い親がその子の切望に時々否定的な答えをするように、否定的であるかも知れない。しかし主なる神はいつも祈りを聞いてそれにお答えになる方である。

★よい友だちを選んで、その友だちの中から、此世から永遠にわたり連れ立って行きたい人を見つけなさい。

★神と神聖な物ごとをうやまうことは、偉大な人のもつ主な特性である。

★若い人々よ。あなたは肉体に仕えてその奴隷になろうとするのか、または霊を強くして此世でも来世でも幸福な生活を送ろうとするのか。

★若い人々よ。もしもあなたが、あなた自身のうちにある霊を強くするという理想を実現するために、自己を征服して人生の真の目的を達成したいなら、わたしはあなたに克己の徳を推せんする。

★誘惑を考えたこともない人に誘惑は来ない。いつもあなたの思いを清らかにしておけ。そうすれば、誘惑の来たときそれに抵抗することはたやすいであろう。

★主なる神は今日「救いの計画」をあらわしたもうたが、それは神の王国に入るにふさわしい特性をもつ、霊界への道に外ならない。

★「まず神の王国をもとめよ」ということは、福音の原則を第一にして、あらゆるほかの目的も追求も二の次にせよという意味である。神の王国の民の第一に為すべきことは模範的生活を営むことである。

★真の幸福（を得ること）の秘訣は、持つことにあらず在ることであり、所有することにあらず楽しみを味わうことである。真の幸福とは、心が心自身と平和な状態にあるときの心の暖いかがやきである。人間は自分の幸福を自分でつくり出す者である。真の幸福とは高い理想の生活をしたときの生活から発する芳香である。

★人が自分の救いを努力して得るということは、何もしないで座っていることではなくて、毎日、毎時間、もし必要なら瞬間毎に、すぐ近くの仕事もしくは手近かの義務を果すことであり このような行為を歳月が流れるようにつづけて楽しく行ない、このような働らきの結果が、正しく情け深い「父なる神」の定めたもうまま、自分自身にまたはほかの者に与えられるのに任せておくことである。

★イエス・キリストの教会には主人もなければしもべもなくてすべての人は一人のこらずの人のために働らき、一人一人はすべての人のために働らいているだけである。

★知識は個人の努力によって得られる。知識を得るには骨折って働かなくてはならない。われわれが知識を求めるために実際に投入する知恵と道徳的勇気と忍耐の量に正確に比例して、はっきりきまった確かな知識がわれわれすべてに与えられる。

伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

家庭はこの地球上で天国に最も近いものであります。家庭こそ最も純粋なそして最も深い愛のあるところであって、また信用と信頼と理解とが世界中のどこよりも多くなければならぬところであります。日本と沖縄のすばらしい聖徒たちは、その家庭を「モルモンの家庭」に見ならってつくりたいと思っています。「しかし、モルモンの家庭と家族とはどのようなものですか」とその聖徒たちはいつも質問いたします。

そこで私は、デビド・O・マッケイ大管長がお書きになった「モルモンの家庭と家族」の概略をみなさんと一しょに味わってみたいと思います。……

家庭と家族

「こころよい満足がいつも存在している永続的な家庭は国の力である。自分の利益を思わない、愛情のある交じわりの中に生活をしている満足した個人個人が、幸福な家庭を形づくるように、満足のある平和な家庭は進歩する平和な町村をつくり、このような町村がいくつもあつまって平和な進歩する国をつくる。われわれの近代文明が永つずきするかしないかは、われわれの家庭が秩序だったよく管理されている家庭であるかないかによる。

このような家庭は、金が多くあるから、物が豊富にあるからといってできるものではない。本当に、最もつつましい家庭にこそかえって最も結束力のある要素と最も高尚な情操がたびたび発見される

ものである。

わが教会にあるどの秩序立った家庭においても例外なく、幼年時代の美しい自由な精神がその国を尊びその神を礼拝するように導びかれ、そしてどの人でも例外なく、家庭が永遠の交わりと永続する喜びのもとであることを知っている。

家族生活の重要性

わたくしは、家族関係の神聖なことと、尊ぶべきことと、永続することとについて、神がその民に教えを垂れたもうたことをたたえたてまつる。

われわれは、結婚というものが人間の知っている、または人間のひき受けることのできる最も神聖な義務であることを若い人々に教えようではないか。また、家族は神が定めたもうた最初の制度であって、人間の中に定められたことを若い人々に教えよ。もしもあらゆる夫婦が例外なく、この義務が神の定めたもうたものであることを了解するならば、離婚にまでなる争いによって破れる家庭の数はもっと少なくなるであろう。

わたくしたちの政府、もしくは共和政体が安全で永つずきするかしないかは、その基礎である個々の家庭が安全で永つずきするかしないかによる。この中にわたしたちは、この民がこの偉大な国を、ある点で、救う者になるかも知れない一つのことをちらりと見るのである。家庭はイエス・キリストの福音の教えも、自由の原則をいつまでものこすことも、共に子供たちに与えるはずの場所である。もしも家庭が破壊されるときには、子供たちは罪の道へそれ始めるそのとき、法律はその手を伸して彼らをつれ戻し、世の中の役に立つことの原則とまことの行状に関する原則とを教える努力をしなくてはならない。しかるに、家庭が破壊されたあかつきには州の力（または国の力）は何という無力なことであろうか！

家庭は愛によって永つずきする。もしもあなたが小さな子供たちの愛を得ていないと感ずるならば、それを得るようにくふうせよ。たとえ家畜の世話を怠たろうとも、良い収獲をあげなくとも、あなたの子供たちの愛を保つようにくふうせよ。

忠実は家庭を永つずきさせるもう一つの要素である。あなたが後になって、子供たちが神権に対して示してほしいと思う忠実（という美徳）は、まず家庭の中であらわれなければならない。愛と忠実と貞操、これらの徳を、あなたは自分の生命を宝として大切にするように大切にしなさい。

わたくしたちの教会はその組織をあげて、理想の社会の中にある理想の人々をつくろうと努力をしているが、結局これらの理想人、これらの理想の青年男女をつくる責任は、両親次に年長の兄や姉が負うべきものである。要するに、この責任は、社会組織の中にある神の単位である家族と共にある。われわれはその責任からけっしてのがれられない。

家庭の中の服従

愛のないところに家庭はない。あなたは大きな邸宅をもつことができるであろうが、（愛がなければ）家庭をもつことはできないであろう。またもしあなたがきたない屋根ときたない床の丸太小屋に住んでいても、この丸太小屋の中に、夫から妻に通ずる愛、子供たちから両親に通ずる愛、服従と従順とを与える愛、人生を価値あら

しめる愛の神聖な原則が充ち満ちているならば、世界中で最もすばらしい家庭がそこにあるのである。

もしも家庭の中で不服従の勢いが強いならば、両親はその子供たちが五才になるまでのうちに服従の徳を身につけさせることはできない、とわたくしは確信している。またわたくしは、幼児の生活のうちのその最も大切な期間に、両親は服従か不服従かの種子をまくのであると思っている。わたくしたちの中には、その幼年期に年から年中「ああしてはいけない。こうしてはいけない」と言っている人が居るが、この人たちは幼児たちに、父親の要求や母親の要求には従がわなければならないということを実感させていない。母親は幼児にむかって「それにさわってはいけません」と言う。しかし幼児はよちよち歩いて行ってそれにさわる。その結果はどうであるかここに不服従の種子がまかれているのである。あなたは子供を罰してはならない。愛情を以て親切に、しかしきっぱりと、家の中には従がわなくてはならない種々の規則があることを子供に教えなさい。世の父親や母親たちよ、将来の人生を形づくるこの五年間に、幼児を良い方へ導く責任を大切に守り、またその責任を痛感されたい。

立派な家庭をつくることは一つの技術

わたくしは家庭をあらゆる良い力を放射するものであると見ている。また、時には残念であるが、社会を毒する悪い力を放射するものであると見ている。もしどの家庭にも例外なく、有能な母親と協力をする父親とが居たならば、わが国の法律官庁は無法者から社会を守るためにもっと仕事が減ったことであろう。

立派な家庭をつくることに関連して、わたくしが「技術」ということばを使ったことに、ちょっと考えただけで反対をする人々があるかもしれない。しかし「技術」ということばは「ある目的を達するために、手段方法を巧みにまた系統的に整備する、または採用すること。あるとくべつの目的を達するために、知識または生れつきの熟練さを実際に適用すること」と定義される。わたくしにとって立派な家庭をつくりあげるために知識と熟練とを実際に適用することは、最も高度の才芸であると思える。それであるから、「技術」ということばの真の意味で、わたくしたちは立派な家庭をつくることは一つの技術であると言っても正しいのである。

立派な家庭をつくる技術には、父親と母親という二人の芸術家の仕事と熟練とがあらわれていなくてはならない。もしもこれら二人の芸術家の仕事が逆の目的で行なわれているならば、二人の努力の結果はしばしば失敗におちいる。もしもこれらの二人が、毎日毎日その生活の中で新しいものをつくり出してゆく働らきにはたらきかけるとき、お互いがほかの者の必要を供給するように調和してはたらくなら、その結果は人類にとってさまたげとなるのろいにならなくて、人類にとって名誉である宝となる少年や少女となってあらわれるにちがいないと思うのである。

「われわれの人格の大部分をつくる者は母親である」と言っても父親の価うちと感化力とが減るわけではない。世界中で最も高貴な天職は母親であることである。本当に立派な母親であることは、あらゆる芸術の中で最高に美わしく、あらゆる職業（特に知能を要する職業）の中で最も偉大なものである。傑作を画くことのできる婦人、もしくは何百万人の心を動かす書物を書くことのできる婦人は

人類の感嘆と賞賛を受ける価値がある。しかし、体が丈夫で立派な息子や娘たちを首尾よく育てあげて、絵画の色があせはて、書物や彫像が朽ちはてもしくは破壊された後々までも、その不滅の精神が感化の力を失なわない母親は、人類の与えることのできる最高の名誉と神の与えたもう最もすぐれた祝福とを受けるねうちがある。母親は永遠の霊に肉の衣を着せて人類に対する高い義務と奉仕とを行なうことによって、創造主（つくりぬし）その方と協同して働らく者である。

家庭の中に（立派な子供を生んで育てあげる）芸術家である母親をもとうとするならば、祖先からひきついだ性質と傾向とをしらべることが大切である。母親の性質はその祖先によって影響を受けているものである。

若い人々は、聡明な家庭の建設が、青年男女それぞれの十代から始まることをよく知ることが大切である。また後に人の親となったときにめぐまれる息子や娘たちの健康が、結婚前の自分たちの行動によってしばしば定まるということをよく知ることが大切である。教会の教壇からも印刷物からも、またとくに家庭の中でも、若い青年男女は将来幸福になるか不幸になるかの基礎を今置いているのだということを、もっとしばしば声を大にして告げ知らせなくてはならない。とくに若い男の人たちは、ひきょう者やさぎ師のようでなしに、真に男らしい男として責任をひき受けるために、自分の肉体を清く保つことによって父親という大きな責任を受ける準備をしていなくてはならない。

また若い女の人たちは、自分の子供たちが罪と病気とを持って此世に生れてこないように、自分の肉体を清くけがれなく保たなくてはならないことが大切である。罪や病気を持たないで生まれ、気高い性質を生まれながらに持っていることは、幼年時代の最も大きな祝福である。

現在この世界には、従順という或る法則が働らいている。世の中には子供が従がわなくてはならない、また子供が逆らってはならない種々の規定がある。さて、子供がそれを学ぶところはほかでもない家庭である。もしもあなたが子供にあることをしてはならないと言っても、その子供がそれをするとき、あなたが叱らないでそのままにしておくなら、それがどんなに小さなことであっても、おきてに従がわないようにあるていど養成をしているのである。

家庭の中で子供が学ばなくてはならないもう一つのことは自分の欲を制することである。家庭は世界中で最適のところである。なぜならば彼はほかの人のために自分をなくするからである。彼は自分のかんしゃくをおさえつけるが、そこは父も自分のかんしゃくをおさえつけなくてはならぬところであり、また母も自分のかんしゃくをおさえつけなくてはならぬところである。かくして、その子供は自分の欲を制することのできるふんい気の中で育って行く。そして大きくなってから社会へ出て遊び仲間と顔を合せたとき、その子供は遊び仲間を重んじ無視してはならないことがよくわかるのである。そして自分に都合のよいように事が運ばないときには、家庭におけると同じように、運動場においても、自分をおさえていることに気がつくにちがいない。それであるから、子供が学ばなくてはならない第一の根本的な教訓は、世の中には子供が従がわなくてはならない、また順応しなくてはならない或る法則があるということである。

大人の生活でもそうであるが、子供の生活における不幸は主に自然の法則や社会の法則に従がわないところから生ずる。後になって自然や社会が要求するような従順さを発達させるのに一番良いところは家庭である。

立派な家庭をつくる技術にすぐれていることほど、人生における高貴な業蹟を実際にあらわす道はほかにない。

家庭と子供たち

どの子供も一人のこらず与えられなくてはならない基本的のことが三つある。すなわち㈠尊敬を受ける家名、㈡安全感、㈢発達の機会がそれである。

家族はその子供に、彼の名前と社会における地位とを与える。どの子供でも、自分の家族が友だちの家族と同じように良い家族であってほしいと思っている。どの子供でも、誇りを以て「あれはぼくのおとうさんだ」と指さしたいと思って居り、また自分の母のことを思うとき、聖い美しい楽しい感じをいつも感じたいと思っている何によらずすべて美しいもの、楽しいもの、清いものに接したとき子供たちがいつも母親を思い出すような生活をすることこそ母親たる者の義務である。また子供が自分を模範にして善良な市民となり教会にあっては真の末日聖徒となるような生活をするのが父親たる者の義務である。

どの子供でも、自分が家に居るときは、外界の危険や悪から守られている避け所に居るのだという感じをもつ権利がある。この必要を満すには家族の一致と誠実とが必要である。

どの子供でも、お互いの関係をうまく調整することのできる、生活の理想の実現に望みを抱いて働らいている、自分の子供たちを心の底から自分を忘れて愛している両親を必要としている。つまり、どの子供でも常識のある、あるていどの見抜く力をそなえている両親、子供の進歩発達にとって、物質的にすぐれていることが与えるよりも、もっと多くのものを与える健全な感情の下（した）じをもっていて、これを子供に与えることのできる両親を必要としている。

自分をおさえることの価値をおぼえなさい。あなたは必らず、あのとき何も言わなくてよかったと思うにちがいない。自制の力がないことが、不幸と不和を招く最もふつうの原因の一つであるとわたくしは思っている。わたくしたちは、ほかの人の中に自分のきらいなものを目にする。それをとがめることはいとやさしいことであるが、その非難のことばは、ほかの人に悪い感情を起させる。もしそれがわかってことばを出すことをつつしめば、にくしみと悪意のかわりにすべてはただちに調和と平和につつまれるのである。ことばをつつしむということは、家庭に調和を得させる最も強い力の一つであるが、それをそだてあげない人々があまりに多いものの一つである。

子供たちを管理する面から見た自制について言えば、家族の者に影響を及ぼすから子供たちは無制限に走りまわることをゆるさないで、正しい指図と監督とをしなければいけないと思う。それは、その子供にひどく当れということであるか。また子供にむちを加えよということであるか。けっしてそうではない。それは不必要である。しかし、わたくしの言わんとするところは、あなたが「いけない」と言うときにはきっぱり「いけない」と言いなさい、というのである」。

いま家族をもっている人たちは、この高い理想をそれぞれの家庭にとり入れるように努めなければなりません。まだ結婚していない人々は、理想のモルモン家族をつくるように計画と準備をし始めなくてはなりません。あなたがその計画と準備を、「天の父なる神」がその霊感を受けた予言者たちによって定めたもうた原則にもとずいて立てるなら、大きな愛と永遠の喜びがあなたの家庭をみたすにちがいありません。日本と沖縄のすみずみにいたるまで、強いモルモンの家族がつくりあげられますようにお祈りいたします。

▼家族讃歌▲

瓜食めば　子等おもほゆ
栗食めば　ましてしのばゆ　いづくより
来たりしものぞ　まなかいに
もとな懸りて　安眠し寝さぬ
銀も金も玉も何せむにまされる宝
子に如かめやも

山上憶良

蜻蛉釣けふはどこまで行ったやら
起きてみつ寝てみつ蚊帳の広さかな

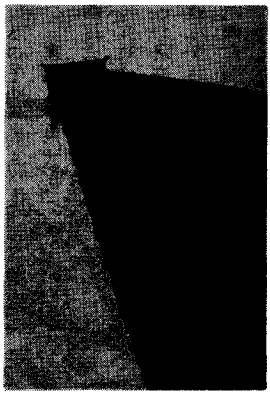
加賀の千代

質疑応答

解答者

ジョセフ・フィールディング・スミス長老

十二使徒会会長



伝道の書第九章第四節、第五節および第十節の意味を教えてください

質問。

伝道の書第九章第四節、第五節および第十節に出ている次の聖句の意味を教えてください。

「すべて生ける者に連らなる者には望みがある。生ける犬は、死せるししにまさるからである。

「生きている者は死ぬべきことを知っている。しかし、死者は何事をも知らない。またもはや報いを受けることもない。その記憶にのこる事がらさえも、ついに忘れられる」。

「すべてあなたの手のなし得ることは力をつくしてなせ。あなたの行く陰府（よみ）にはわざも計略も知識も知恵もないからである」。

解答。

これらの聖句は、人のよい人々に、肉体には霊がないと信じるようにならせた。またそのほかの人々は、墓の中にある肉体と同様に霊も眠っていると信じている。人間の霊は、人間の産れない前から存在し、此世の生涯では肉体と結び合っているが、死後もなお存在しつづける完全な実在であるということを教

えている多くの聖句を見ていながら、聡明な人がこのような信仰を受け入れることができるというのは、きわめて不思議なまた理解し難いことである。さらにわれわれは、霊と肉体とは復活のとき結合して（復活体となり）けっして再び分離することはないという聖句を確く信じている。「救い主」は、その弟子たちとこの世に於て導きとめぐみを施こしておられた際、このことをひじょうに明らかにしたもうた。

前の聖句の実際の意味は簡単なことを言っているだけである。すなわち、人は死んでしまえば間もなく忘れられてしまう。その人に関する此世のこと、その仕事、その楽しみ、その悲しみを、その人が最も愛していた人々も友人もみなもはや覚えてはいない。世界はそのなすべき事をつずけて行く、日は来り日は去り四季もまた同様である。地球は死んだ人にかかわりなく永遠の過去から同じように大空をめぐって行く。人がどのように偉大であり有名であっても、死ねば間もなく忘れられてしまう。もはや死んだ人々は一言も出さず、忠告も伝えないが、事物は彼がなくても自然の道に従って運行しつずける。それであるから、われわれが前述の聖句のもつ真意を直視するとき、われわれは「死んだ人々は間もなく忘れられる」という事実に同意しなければならない。

死者の霊が存在しない、いつまでもつずかない、考えたり行動したりしないということは誤った考えである。死によって存在が終るのではない。不死不滅の霊が、どのような意味でも働らいていないということにはならない。また、死者の肉体に（生前）宿っていた霊がないということにもならない。ソロモンが書いたことになっているこれらのことば（伝道の書）は、明らかにソロモンが神の誡命にそむいてしまった晩年に書かれたものである。その事情がどうあろうと、そのことばをながめてありのままにしらべてみれば、すくなくとも大体においてソロモンが正しかったことを認めなければならない。われわれ死すべき肉体をもっている人間として、死者の霊に与えられる特権や機会についてこれを論じたり正しく評価したりする立場ではないが、死が来たとき人の肉体は墓の中に安らかに横たえられ、また忙しいこの世の事については何も知っていないということをソロモンと共に言うことができる。それであるから、われわれが一つの実在物として死すべき肉体を論ずるとき、われわれは完全に同意することができるが、その肉体に属している「生ける霊」は大いに生きて活動しているのである。われわれは死後肉体をはなれた霊が、この世に在ったときのように、いろいろの状態についてどのていどまで知ったり理解したりすることを許されるか、これまで少しも知らされていない。霊が活力のある実在としてなお存在しているということは、あらゆる方面から保証することができる。霊は「永遠なるもの」としてつくられたからである。死ぬべき肉体が死んだとて霊が死ぬわけではない。霊はつずけて存在し、活力をもち、復活の日を待っている（訳者注。霊は死にたくても死ねないものである）。それであるから、霊は眠っているとか「永遠なる」霊はないとか言う考えはまちがっているから、アダムの時代このかた主なる神が人類に下したもうたすべての啓示の中では、この考えを信ずるに足らぬものとしてある。

聖典の中には多くの例が記録してあって、それらはみな霊が一つの実在であり、「永遠なるもの」であるから肉体の死後もなおつずくということをはっきり示している。聖書に

（571頁へ）

シオン山の救い手たち

ナサン・エルドン・タナー副管長

この生涯に於て福音を聞き又は受入れることが出来又は出来なかったにかかわらず、生けるも死せるも又未だ生れざるにもすべての人類に救いをもたらすイエス・キリスト自身によって認められた組織の会員となることは誠に光栄ある権利であり又祝福であります。末日イエス・キリスト教会がそれであり、今日世界で唯一の組織であります。この末日に直接の啓示によって設立され、イエス・キリスト自らの名を与えられた、この教会には福音が完全な形に於て与えられているのであります。教会とその会員は他の任務と共に神殿と系図の仕事をするように予言者を通じて命ぜられているのであります。彼らが従うべき計画は彼らの為に概略立てられてあります。直接の啓示を通じて、昔の予言者、イエス・キリスト御自身、及びその使徒たちが教えた多くの簡単な福音の原則に回答が与えられて来たのであります。その例として他のキリスト教会の信条と教えは一面に於てバプテスマを受けずして死んだ子供たちは地獄に陥って永久に救われないと主張する極論から他面人はどの教会に属しようと或は教会に入っていようといまいと或は又キリストを信じていようといまいと、唯りっぱな生活をすればよいとする極論迄、変って居ります。多くの者が〝だれでも水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない〟（ヨハネ伝三・五）ということを理解せずむしろこっけいにさえ思って居ります。又或者たちは〝神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである〟（ヨハネ伝三・一六）を信じようとしません。これらのクリスチャンと公言する多数の者がキリストが真に父なる神の一人子で彼

は文字通り復活し全人類は彼の贖いによって救われ、律法と儀式に従うことによって永遠の生命を得ることが出来るということを否定して居ります。又他の者はキリストは彼自身の名を与え使徒たちとその頭に予言者を彼によって設立された真の受入れられる教会のみを持つであろうと言う考えを拒み冷笑します。大多数のクリスチャンが今日の神権時代に於てさえ〝まことに主なる神は、そのしもべである予言者にその隠れた事を示さないでは何事をもなされない〟（アモス書三・七）ということを信じようとしません。

神学者たちにさえ殆ど理解されず受入れられていないのは死者の為の代理の仕事であります。これらの宗教的な指導者たちは〝そうでないとすれば死者のためにバプテスマを受ける人々はなぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか〟（コリント前書一五・二九）という声明を理解することに完全に失敗して居ります。この聖文の意味する証拠を受入れるよりも彼らは何とかして自分で説明してしまおうとします。或早期のキリスト教徒たちによって死者の為のバプテスマが教えられ実行されていた積極的な証拠が四世紀の著作者エピファニヤスによって彼の反対するマキオナイト人に就て記録されてあります。

〝この国で即ちアジヤで又教育の進歩したガレシヤに於てさえ、バプテスマを受けずに死んだ人が復活の時に罰せられないように代ってバプテスマを受けるという伝統的な事業が見られた。（異教　二三―七）

それが実施されていたことの他のもっと強力な証拠は紀元三九七年に開かれたカーセージ会議録第六巻に死者に対するバプテスマの執行を禁止して居ります。

幾世紀も前に予言者イザヤは、捕われた霊たちが多くの歳月を経てから解放され訪れるであろうと予言しました。ペテロ前書三・一九―二〇に記録されてあるようにペテロは特に主がその肉体が墓に置かれている間に〝……獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた〟と宣言しました。そこで彼は更に言いました。〝死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが霊においては神に従って生きるようになるためである〟（同上四・六）

天使モロナイが教会の組織される七年前にジョセフ・スミスに現れた時になした最初のことの一つはマラキ書四・五―六を若干変えて次のように引用したことであります。

〝見よ、主の大いなるおそるべき日の来る前に予言者エライジャの手によりて、われ神権を汝に顕さん〟

彼は又次の節を異って引用しました。

〝彼は先祖になされし約束を子らの心に植え、子らの心にその先祖を思わしめん〟（ジョセフ・スミスの著二・三八―三九）

このことは長い間ユダヤ人の聖典の中にマラキ書四・五―六に記録されて人々の眼の前にありましたが、この末日にそれが成就する迄は理解されなかったのであります。

教義と聖約百十章にジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリが一八三六年四月三日、カートランド神殿に居た時に示現を見ましたがその中に主御自身が姿を現わされて次のように言われたと記録されてあります。

〝誠に幾千幾万の人々の心は、天より注がるる祝福によりて真に喜びを覚え、またわが僕たちがこの宮居に於て授けらるるエンダウメントによりて喜びを覚えん〟

〝而してこの宮居の名声は外国までも拡がらん。これわが民の頭に注がるる祝福の始め

〝なり。誠に然り、アーメン〟（教義と聖約一一〇・九―一〇）

更にジョセフは述べて居ります。

〝この示現閉ぢらるるや、また別の雄大にして栄光ある示現突如開かれたり。すなわち死を味わうことなく天に上げられし予言者エライジャわれらの前に立ちて曰く

〝見よ、ここに於て正にその時は全く至れるなり。そは曾てマラキの口によりて言われしことにして、すなわち主の大いなるおそるべき日の来らん前に、彼（エライジャ）遣わさるべし。

〝すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん、然らずば、全地は咀いをもて打たるべし、と言われしことを証する時なり。

〝この故に、この末日の神権の時代の鍵を汝の手に委す。これによりて汝らは、主の大いなるおそるべき日のすでに近づきて正に門口にあるを知るを得ん〟（同上一一〇・一三―一六）

エライジャによって参照された知識の鍵は死者の救いに関係するものでありました。この末日に於ける予言者を通じての直接の啓示によって、私たちは福音がこの世を去って行った霊たちにも説かれ彼らは救いの原則と儀式を理解し、そこで彼らの為になされる代理の仕事を受入れる準備をすることが出来るということを知るのであります。人類にもたらされた最大なる働らきは、すべての人類が救われるようにその生命を捧げたイエス・キリストの贖いであります。彼は人が自ら出来なかったことを代ってなされたのであります。直接の啓示によって末日聖徒は、死者の為に代理の仕事をするように召されて居ります。それですから、死者の救いの為に働らくということは福音を受入れ教会に入ったすべての会員の義務であり特権であります。

生きた人に執行されるすべての儀式は神殿の中で死んだ人に執行されるのであります。―バプテスマ、按手礼、エンダウメント、永遠の結婚及び結び固めであります。この仕事の大切なことはこの末日の神権時代、満ち足れる神権時代にすべての予言者によって強調されて来ました。教会はその会員たちが、この最も大切な任務を完成することが出来るように生者と死者に神殿の儀式の出来る神殿を建てるのに数百万弗の金を費して来ました。長い間教会の会員たちは死者をたずねて彼らの為に神殿の儀式を執行するようにすすめられて来ました。実際に予言者ジョセフ、自らこの世に居る時に言いました。〝神が私たちの上に置かれた最大なる責任は、死んだ私たちの先祖をたずねることである〟（教会歴史録六巻三一三頁）

一八九四年四月の大会でウィルフォード・ウッドラフ大管長は子をその父に結び固める結び固めに関して受けた啓示を発表しました。〝すべての人がその父に結ばれ、更にその父が又その父に結ばれて遡って行くことが神の、その民に対するみこころである〟

この同じ年に大管長会の指示の下にユタ系図協会が次の目的を以て組織されたのであります。

㈠ 可能なすべての根源から系図の情報を集め、それを保管する為の図書館を建てる。

㈡ この情報を利用しようと望むすべての教会の会員及びその他の人に配布利用させて援助する。

㈢ 氏名を受けて神殿の為にクレヤ（本人に相違ないことをはっきりさせる）する。

教会の系図協会は小さな出発ではありましたが創設者の期待を遙かに越えて発展して行ったのであります。今日それは学者、学生、系図家たちによってこの種の施設として世界

一であると認められて居ります。記録の価値を知っている者たちはその収集量、及び範囲に驚歎して居ります。今日、図書館には六万六千冊以上の書籍と二千種以上の写本とがあり毎月約百五十冊の書物を受取って居ります。この外私たちは三十四万巻のフィルムがあり、それは約百六十五万巻の書又は五億頁以上に匹敵するものであります。

これらすべての情報は希望者の利用に開放されて居ります。又図書館内に於て担任の職員がその使用を援助することが出来ます。現在の指導者、デビット・オー・マッケイ大管長が今日再びすべての人が系図の探求に従事することの大切さを強調されました。人々が如何にこれに応えつつあるかを見ることは最も励まされることであります。図書館に来るお客さんは毎月六十パーセントから百パーセントに上昇しました。これらのお客さんに奉仕する為に図書館員を増加し、開館の時間を週五日間は午前八時半から午後九時迄又土曜日は午前八時半から午後五時迄としたのであります。

この系図の探求に興を持ってこれに従事する会員が日ましに増え彼らはその為し遂げたことに非常な喜びと満足を覚えて居ります。

他面多くの人が神殿に出席して、死者の為に儀式を執行したらすべて彼らに要求されていることを為し終ったと感じ、神殿の仕事を継続する為に更に新しい氏名を探求することの重要さを自覚しないのであります。実際に於て、儀式にかける氏名が不足している為に或神殿は一時的に閉鎖するの止むない状態に至って居るのであります。大管長会の指示の下に、この状態を改善し、この計画を遂行する為に、系図協会によって直ちに措置がとられたのであります。先づ第一に非専任宣教師制度を設けて神殿の為に氏名を準備するように一定教の宣教師を召して系図協会で働らいてもらいます。この計画は成功して、神殿は全時間働らくことが出来るようになりました。

増加の一途をたどる会員の必要に応え、彼らの系図の仕事を授けて全世界を通じて神殿の為に氏名を準備する為に教会全体的な系図計画が大管長会の指示の下になされつつあります。

先づ教会全体を通じて各ステーキ部長会によって高等評議員を系図委員会長とし、その補佐たち及び書記としてメルケゼデク神権者たちを以てする強力なステーキ部系図委員会を組織します。

このステーキ部委員会はステーキ部長の指示下にワード部委員会と密接に協力し、系図協会によって目論まれた全般的な企画に亘って彼らを援助し激励します。

二番目に、教会全体を通じて各ワード部及び支部の監督又は支部長は資格ある秀れた人その或者は系図専門家を選んでワード部系図委員会を組織します。この委員会はワード部又は支部を通じて、すべての系図及び神殿活動の責任を負い、これらの単位内のすべての教会員を援けます。

第三番目に人々が系図探求によく訓練されるように抱括的な教育計画が立案されました。ワード部系図委員会の指示の下にＭＩＡに新しく系図成人クラスを設けて成人たちがＭＩＡに出席して系図の教育を受けるようにします。同様に日曜学校は教会の若い人たちにこの回復された、福音の興味ある分野を紹介する為に十四才、十五才の年令層の人たちに曾て準備された最も興味ある系図課程を準備します。以上の計画に加えてＢＹＵ大学は系図課程を提供します。又系図協会に於て各国の系図探求の上級課程のテキストを準備中であります。

（557頁へ）

新潟地震に際して

新潟支部長　松川護兄弟

去る六月十六日午後、新潟一帯を襲った地震いわゆる〝新潟地震〟について、そこにくりひろげられた「モルモンの愛」の一コマを当の新潟支部長松川護兄弟に綴ってもらいました。

この度の新潟地震に際し全国各支部及び各会員から寄せられた暖かい兄弟愛に、救援の品々、激励の言葉に新潟支部全会員に代って心からの感謝申し上げます。

伝道部、地方部、長老定員会、建築宣教師及び扶助協会のすばらしい働きに会員及びその家族、又会員の友人及び知人から沢山のお礼の言葉、感謝の言葉が届いて居ります。そこで救援活動の一端と私の体験等を合わせ、お知らせ致したいと思います。

新潟市に住む会員達はすべてが直接に或いは間接に多かれ少なかれ被害を受けております。幸い宣教師、会員とその家族に死傷者はありませんでした。しかし家を焼失した兄弟、姉妹が居ります。床上まで汚水が浸水し家財道具をすっかり濡らした姉妹も居ります。又住居の鉄筋アパートが横倒しになった姉妹も居ります。家が大きく傾いたり、玄関と裏の台所がさがり家が二ツ折れになったり、床下から地下水が吹き上げ床上まで水が入ったり、砂が吹き出し玄関口から床下まで砂で一杯になったり数え上げればキリがありません。又市外から新潟の学校、勤務先へ来ていた姉妹が交通機関がとだえ三日も家に帰れないようなこともありました。

しかし証詞会で会員達一人一人が損害を受けたより以上に困難に会ったより以上に、すばらしい証詞をそれぞれの心に得たことを知らされました。これまでは名も知らない他の支部の兄弟から同じ神権の職にある者として慰めと励しの言葉を受け、更に兄弟愛を確認した者、避難していく道の先々が地割れしていく恐怖のうちにも神のみ守りを知った者。家が焼けるかも知れないという不安な状態のときにも慰めと安らぎを覚えた者。これまで平和な時に如何に恵みのうちにあったかを知り感謝の念を新たにした者、等々

私達は苦難にあっても必ず道が備えてある

こと、その苦難を通しての貴重な体験が信仰を強め、永遠の進歩へと導いてくれることを知っています。

地震三日目、群馬支部からの救援隊萩本群馬支部長、石川建築宣教師等と共に火災に会ったと思われる兄弟姉妹を避難所に訪ねました。そしてそれぞれに水、食物、衣類をとどけました。避難所は何処も多勢の人で部屋は各自が腰を下すのが精一杯の狭さでこんなに沢山頂いても置き場がないと断られる程でした。それで私達もその後毎日少しづつ届け、一ケ月後漸く被災者用の仮設住宅（これでも六人家族に六畳一間）に落着かれたときに衣類や生活必需品を届けることが出来ました。

その時の炊事道具と米で震災以来始めて暖かいたきたてのご飯が食べれたと後日ある姉妹は涙を流して感謝されていました。

又ラジオの報道で火災現場の先にあたる処にいる人達が焚出しが届かず食べ物に困っていること知りました。そこには兄弟が一人姉妹が一人居る筈でした。既にヨルの九時は過ぎておりますが私達は何としても行って消息をたずねなければならないと思いました。

普段自動車の通る路は火災現場の真直中にありとても通れません。裏から入る他の小さな道はどうだろうかと近くの交番でたずねると火災現場の脇を通る道が漸く通れるようになったと知らされその道を行くことにしました。火災現場の近くまで来ると道路から百米位離れたところにあった大きな原油タンクはすでに焼け落ち、その油が流れ出た附近一帯がまだ小さな炎を上げて燃え続けています。道路の反対側にある民家も燃えながら流れ出た油で二、三軒が焼けています。道路は化学消火をしたあとらしく油がタールかアスファルトのような感じで固まっています。

その先では道路上五十米位に渡って炎が見えそれをさけて畑の中に車の跡があります。運転者の萩本兄弟が車からおりて通路を調べ何とか行けるということで進みましたが、すぐ側で燃え続ける炎で顔がほてる程です。しばらく進むと、再び道路は地割れが激しくなりスキで堀り起された畠のようになっています。

そして遂に私達は、兄弟姉妹をたずねることが出来ました。家族の人達も私達の差出す救援物資に本当に喜んで下さいました。

幸い兄弟も姉妹も無事で大した被害は、ありませんでした。

こうした神権者の働きは萩本兄弟の口ずさむ讃美歌にある如く「正しきわれら恐れなし」「主はつねに近く在ます」「主はわが味方なり」ということをよく知っているからだと思います。

山の下（地域名）の浸水地帯に、消息不名の姉妹と兄弟の家庭（兄弟は他支部へ転出しその家族）が三軒位どうしても訪問できずにいました。一度は萩本兄弟等と一米近い汚水の中を訪ねましたが車では水が深くて目的の家庭まで行くことは出来ませんでした。又すべての避難所を尋ねましたが消息がわかりません。

避難所は方々にあり、その上道路が陥没と浸水で寸断されており、すぐ眼の前に見える次の避難所も大きく迂廻しなければなりません。避難所を尋ね廻るだけでも一日中かかります。教会の車は連日夜の十時過ぎまで、活躍しました。

そこで残された方法は唯一ツ、重油で汚れた一米の水の中を身体を濡らして入って行くことだけです。汚水に入ると原油がペットリとつき、衣類は洗濯もきかず捨てなければならないと云われております。

そんな時に一人の兄弟が、私の処へ来ました。彼は東京から伝道部長の伝言をもって

き、その返事の支部の被災状況報告を持ち帰る予定でした。（伝道部ではこの報告をまたずに救援活動を起し、早くも三日目には沢山の物資が田中健治第一地方部長、田中英雄評議員等によって届けられました。）

その兄弟の家は焼失し、焼跡の整備も終り東京の学校へもどる積りでした。その時彼は消息不明の三人の兄弟姉妹のことを知ると何んの躊躇もなく私が尋ねて来ましょうと穢い水の中に入って行きました。しかも私達がこれまでに度々訪門してよく知っている筈の所でさえ町の様子がすっかり変り、目的の場所を見出すのに困難を感じるような時に、まだ一度も訪ねたことない家庭を互に顔もよく知らない兄弟姉妹を訪ねていくのです。

どれだけの勇気がどれだけの兄弟愛が必要なことかはかり知れません。

兄弟にその勇気がその愛があるのは、イヤというほど被災者の苦しみを知っていたからです。彼の家は焼失しました。やっと運び出した家財は火事場ドロボウにすっかり持去られました。ぎっしり一杯の避難所に何日が泊りました。一日オニギリ一個しか貰えない日もありました。彼には自分のこと以上に現にこのように困っているかも知れない兄弟が姉妹が思いやられたのです。

私には今は兄弟が精神的にも肉体的にも疲れていること、その上日頃から余り体が丈夫でないこともよく知っていました。しかし又彼が為そうする行為が水の中に孤立しているかも知れない兄弟姉妹とその家族には勿論のこと彼自身にも必要なことであり大切なことだということも知っていました。

私も怪我をして病床にあったときに、自分の苦痛以上に、支部にはもっと困り、悩んでいる人があり、自分の働らきを必要としているという、支部長としての責務が、どれだけ自分を支え病気の恢復をはやめてくれたかを承知して居ります。

そして彼は三軒の家庭を訪問しそれぞれ親戚に避難して無事であること知りました。

しかしある姉妹の家庭ではお父さんが二階に残って居られました。そこは広い浸水地帯の中心で水も食物も不充分だと聞いて帰り再び水と食料を持って汚水の中を入って行きました。

そのときの兄弟の言葉に即席ラーメンがスープ付のものより味付けのものがよいというのがありましたが火が使えない状態で生のまま食べなければならないとき味付の方がよいなどとは全くそれを体験した者でなければ解らないことだと思いました。

兄弟の立派な行為にはその後それぞれの家庭からの鄭重な礼状やわざわざ教会にまでお礼に来られた姉妹とその家族によって証明されます。

東京からの第二陣救援隊（今井地方部長他）に消毒薬洗剤等を持って来て頂きました。洗剤や薬品は品不足で市にはありませんし、油で汚れたものは余程よい洗剤でなければおちませんので大変感謝されました。

その時、訪問した兄弟姉妹のうちには何軒か始めて尋ねるところがありました。そこにはこれまで家庭訪問活動で家の所在が分らなかった処もあります。しかし今度は全部の家をしかも容易に知ることが出来たのです。

これまでに家庭訪問をされた神権者や訪問教師の方々はわかることと思いますが、メンバーシップレコードの住所では訪問することが如何に困難であるか又どうしても尋ね当てることが出来ない家があることを知っていると思います。それが今回はすべての家が容易にわかったのです。

又地方部長等が東京に向け発たれた後で私はその車の運転台の下に大切なメンバーシッ

プレコードを忘れていたことに気がつきました。もしこのレコードがなければ明日からの救援活動に大きな支障のあることは必然です。残念なことですが私には二百余名の支部会員のすべては解りません。そしてまだ確かな消息の分らない会員（殆んど被害のない地域に住む兄弟姉妹）が沢山居り明日からその人を訪問しなければなりません。

私が大変な失敗をしたと気づき、困ったことになったと皆に話している時に。ゴメン下サイと聞きなれない声がし、ニコニコ顔をした建築宣教師の一人が疲れた身体で、しかも馴れない土地の深夜に近い雨の中を、もう一度ひき返してレコードを届けてくれたのです。どのようにして運転台の下のレコードに気付いたか私には分りません。

しかし確かに神様は私達に必要とするものを与え、またこのように私達の不用意不注意さも補なって下さいます。

確かに神様は生きて居られます。そして愛の御手をもって私達を常に御守り御導いて下さいますことを証詞出来ます。

その後も金沢での豪雨、九州での台風と災害は続きます。全国の皆様の上に主のみ守りとみ恵みを心よりお祈り申し上げます。

那覇支部くわいれ式

（関係記事565ページ）

行ないのない信仰はむなしい

中央支部　及川　康

行ないのない信仰はむなしいものです。行ないがなければ、信仰ではなくて知識とか単なる信念です。この行ないというものは強い信仰がなければ充分に実行する事はつらいでしょう。旧約聖書の箴言一章七節に「主を恐れる事は知識の始まりである」「おろかな者は、知恵や教訓を軽んじる」とあります。本当に神様を畏れる事によって理性、戒め、教訓を守るようになり、人格も出来て来ます。本当に神の律法と戒めを守る事は真の知恵の道であります。知恵というものは魂から来るもので健全な魂の時に良い知恵が生れるのです。この知恵と云うものの本質は、神の眼から見てどういう生き方が正しく、どういう生き方が間違っているかを悟る事です。それから律法を守るという事についてですが、たとえば、演劇の場合を例にとって見ますと、芝居をやる場合に、形だけの真似でいくらうまく見せようとしても、しっかりした心理的な裏付けがなければいい加減なものになってしまいます。それと同様に信仰生活においても人が言ったから、あるいは他の人がやって居るから律法を守ろうとすると無理が有ります。良く勉強して体験し確信すれば強い信仰が持てる様に成ります。強い信仰を持つという事は、素晴しい事です。旧約聖書の箴言を見て下さい。三章の一節と二節『我が子よ私の教えを忘れず私の戒しめを心に止めよ、そうすればこれは貴方の日を長くし命の年を延べ貴方に平安を増し加へる』二章十一節『つつしみは貴方を守り、さとりは貴方を保って悪の道から貴方を救いいつわりを云う者から救う』二十八章一節、あしき者は追う人もないのに逃る。正しい人はししの様に勇しい』確かな事です。イエス・キリストの正しい強い信仰を持つならば立派な人間になる事が出来ます。これらの話はすべてイエス・キリストの御名によりいたしました。アーメン。

（二分半の話より）

今日それをなせ

中央支部　鶴崎澄人

フランスにリョーティ元師という人がおりました。彼がアフリカに滞在していた時、或る木を見てその枝振りが大変気に入ったのでその木を植えるよう庭師に命じました。庭師は驚いて、この種の木は成長するのに二百年もかかるのですと答えました。元師は「それなら尚更時間を無駄にしてはいかん。今日すぐ植えてくれ」と言ったそうです。私はこのエピソードが大変気に入って、私の心に植えつけたのです。さて、私達はこの話の庭師と同じ考えで、何かやろうという時に渋ることが多いと思います。

時間は短かく教育は長いと言います。ここでいう教育とは、学校での教育に限らず成人教育を含めて、私たちがこうして教会で勉強することもその中に入ります。学校教育は人生という点から見れば、幼稚園に相当するくらいで、ほんとうの教育はそれからです。教育

の価値はどこにあるかについて私の意見を言いますと、知的減急性、真実を求める心、道徳性、正義感、的確な思考力というような面です。永遠の進歩という言葉もある通り、私たちが真の教育の目的を掴む為には、今すぐ勉強を始めなければいけないわけです。植物が生長するにも大風その他害があるように、ほんとの教育についても妨げがあります。そんなことを勉強して何の役に立つかという懐疑主義世界を理解するには自分の周囲をとりまく現実を処理すればよいという現在主義、科学によらない一切のものは旧式であり不適切であるとする科学主義といったものがあります。私たちの物質的生活を便利にすることはできても、科学は私たちの行為を指示することはできません。こうした主義が人の口を借りて聞えたり或いは自分の頭に生れます。いよいよもって私たちの真の教育は先が長くなるわけです。それだからこそ時間を無駄にしてはいけない。今日すぐ始めなさい、とリョーティ元師に代って申上げます。ただし、これは私自身に対して言う言葉です。

民数記断想

第十七章

新田兄弟

モーゼの杖とアロンの杖

モーゼの杖は能力と権威の象徴で、アロンの杖は死んだ者を生きかえらせ、生きた者として召し給う神の恵の象徴である事を学ぶことが出来る。

モーゼの杖について他のところで学ぶと、そのはげしい打撃のもとにエジプトの全地は震え、モーゼの杖が伸べられると疫病は相次いでそこに下った。また、モーゼの杖に応えて紅海の水は二分された。

このようにモーゼの杖には、力と、権威があった。しかし、イスラエルの子等のつぶやきを止めることは出来なかった。

これをなし得たものは、アロンの芽ぶいた杖であった。枯れた杖に実を結ばせた恵みは、イスラエルを荒野のうちに保つことが出来た。この純粋な恵み、自由な主権的な恵みは、何よりも力強いものであり、美わしいものである。

乾いた枯れた杖は、イスラエルの人々の状態を最も良く現わしており、また、自然の性質に於ける我々一人一人の状態をも示している『芽をふき、つぼみを出し、花が咲いて、アメンドウの実を結んでいた』(十七章八節)杖は、生命を与える神の恵みと力とを示すものである。ひとり、神の恵みのみがこの大衆の無数の入用に応えることが出来た。モーゼの権威の杖は、罪人を打つことが出来、つぶやく人を除くことが出来たが、アロンの恵みの杖は、つぶやきを除くことが出来た。

枯れた杖に実を結ばせた恵みのみが、民の入用を満たしたのみでなく、不平と反逆の民を導いたのである。

不信仰は、枯れ木が一夜のうちに芽ぶき、実を結ぶことを否定するであろうが、神が言い給うたことを信ずる素直な魂は、ここに、神権の奥義をみい出し、キリストの模型と、復活の予表を味うことが出来るのである。

何故末日聖徒は神殿を建てるか？

前十二使徒会員
ジェームス・イー・タルマッジ

（イムプルーヴメントエラ一九一四年六月号掲載「七一二頁」再版）

末日聖徒は神殿を建てる民として顕著に知られて居ります。キリスト教の原則を信奉すると公言する多くの教会、宗派、社会協会に在って末日聖徒イエス・キリスト教会のみが唯一の神殿の務めの教義を受入れ実施している教会であります。他の宗教団体は粗末な教会堂から大きな会堂及び堂々たる大伽藍迄建てていますがこれらの建物は如何に偉大であっても真の特別な意味で神殿の用に供されると言われないのであります。

神殿は神聖な儀式を執行する為のものであります。この特長を真の生きた神の名によって建てられた異教徒の神殿及び至聖所に比べることは興味あり又参考になります。

昔の異教徒の神殿の犠牲の祭壇は建物の入口の前面に設けられました。そして如何に多くの信者が祭壇につめかけても祭司の外は実際の神社又は神殿の内部に入ることを許されなかったのであります。イスラエル人がエジプトから移民する時に建てた携帯至聖所であった集会の幕舎に於ても同様でありました。又堂々たるソロモンの神殿、ゼルバベルの神殿及び最大なるヘロデの神殿に於ても同様で、これらのそれぞれの広々とした庭は外壁を以て囲まれ祭壇とその他の設備があり、定められた規則と秩序に従って、その庭の内に人々は集会したのであります。けれども至聖所そのものは割り合いに小さな建物で最も神聖な儀式及び礼式の為に保存されていたのであります。

昔のイスラエル人によって建てられた至聖所の研究は為になりますが本論の目的と限られた紙面によりそれは不可能であります。

現在の神権時代に神権は必要であります神殿なくしては啓示された神の目的は成就されないのであります。昔主はモーセに言われました。

〝これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。〟（モーセの著、一・三九）

この神の御業を完成さす為に神殿が欠くべからざるものであるこ

とを私たちは認め又この確認を支持するのに次の事実があります。

不死不滅ならざる堕落した状態にある人間は私たちの最初の親が罪を犯してエデンの園を追出されたと同様に神の面前、天より閉め出されたのであります。

堕落を通じて人類にもたらされ死の力はイエス・キリストの贖いの犠牲によってその永久性を奪われ、ここに死者の復活が始められたのであります。

復活は普遍的でキリストの死に打克った勝利は、義人たると罪人たるとを問わず全人類に及んだのであります。

けれども復活は死からの回復であり墓の一時的な勝利からの解放であって個々の罪からの救いではありません。復活した罪人は復活した義人がその献身した生涯の実として永遠の祝福を受けると同様にその為した悪に対する不可避的な審きの結果を受けるのであります。

イエス・キリストによってもたらされた贖いは唯に死のきずなを断切って霊の回復をもたらしただけでなく〝律法と福音の儀式〟に従う条件を受入れたすべての人に救いをもたらしたのであります。

死からの復活に示された大いなる破壊者の力からの贖いの恩恵は偉大であり輝かしいものであります。霊の救いの規定は更に光栄あるものであります。表わされたイエス・キリストの福音は、更に素晴らしい祝福、昇栄の計画を備えて居り、これによって復活した人は完成の一段階から他の段階に前進し、決して終らない進歩と永遠の増加の力を伴った神の位に達するのであります。

(549頁より)

第四番目にその完成迄には時間を要する電子計算器が準備されつつあります。

第五番目に計略的観点に立って教会全体を通じて支部図書館設立が考慮されて居ります。この計画に就て委員会が働らいていますが、会員たちが探求に必要な記録やその資料が得られるように協会の規則と標準を守る、図書館が設置されることが望まれて居ります。

今や組織される機構と進められる教育計画によって、何人と雖も系図の仕事を無視してシオン山の救い手たちとなる（自分自身の為に出来ずして死んで行った先祖の為に）大いなる満足を失する言い訳は立たないのであります。

▼ことば▲

私たちの子供達は軽んじられてはならない。すなわち子供達は霊的にも、世事にも立派な教育を受けるべきである。

このことはどの両親も、その子供達に残しうる最上の贈物である。

私たち両親は、子供達に祈ることを教え、子供達が若いうちにすべての正しい教義を子供達の心に植えつけさせねばならぬ。

大管長　ウィルフォード・ウッドラフ

伝道本部だより

バプテスマ　一九六四年七月

阿倍野
長谷　久美子
今村　和彦
岩田　成子
越河　克己
野崎　久仁子
高田　繁治
旭川
畠山　信子
山口　令美
福岡
古家　民子
石津　みつ代
白石　祐二
丹　久俊

松田　晾子
若狭　悦子
高山　拓明
野村　友近
笠原　倫子
立田　真理子
藤田　恵子
広木　美智子
井地　保晴
松島　健彦
宮原　浄司
中山　克己
野村　幸知
大塚　裕美子

柚木　秀夫
疋田　一子
古林　道子
斎藤　明
室蘭
山本　捨治
柳瀬　多加子
名古屋
今井　保一
兼村　和信
兼村　千恵子
木下　美保子

小樽
根木　広明
札幌
五十嵐　克彦
垣谷　佳子
川人　敦喜
小寺　俊彦
東京南
西岡　隆義
岡田　憲弘
東京中央
松隈　祐司
小保方　雅子
東京東
青木　かほる
有沢　良康
赤沼　忠雄
千葉　清子
浜田　俊一
広瀬　康治
曳田　俊幸

宮田　肇
井川　福治
望月　俊明
高林　宝弘
山口　悦子
井口　正敏
吉田　紀子
東京西
小松　勝之
山形
後藤　妃路子
後藤　節子
塚田　恵美子
川合　和夫
柳井
小田　武
那覇
新田　一雄

島尻　重信

神権

住吉　修（教）

阿倍野

アズマ　ウシオ（教）
藤井　利広（執）
本田　勇（執）
堀　利夫（執）
本田　八十八（教）
矢野　義高（教）
安井　久明（執）

旭川

ミチカワ　タダトシ（教）

福岡

石井　猛（猛）
吉沢　弘（執）
佐々木　隆雄（長）

広島

青木　義盛（祭）
ヒキノ　ヒロシ（執）

甲府

森　隆暁（教）

岡町

岩間　邦美（執）
坂上　栄（執）

小樽

藤田　烈（祭）

三宮

高橋　司郎（教）

札幌

川島　繁（執）

東京中央

小賀　康祐（執）

東京東

秋葉　高仁（祭）
堀田　三千男（教）
井上　勝二（教）
中川　茂（教）
佐川　喜克（執）

佐々木　晃一（執）
吉原　秀雄（執）
池田　与志雄（報）

新潟

ホシノ　オサム（祭）
カンダ　アキヒコ（執）
ワタナベ　マサユキ（教）
ヤマダ　タケオ（教）

京都

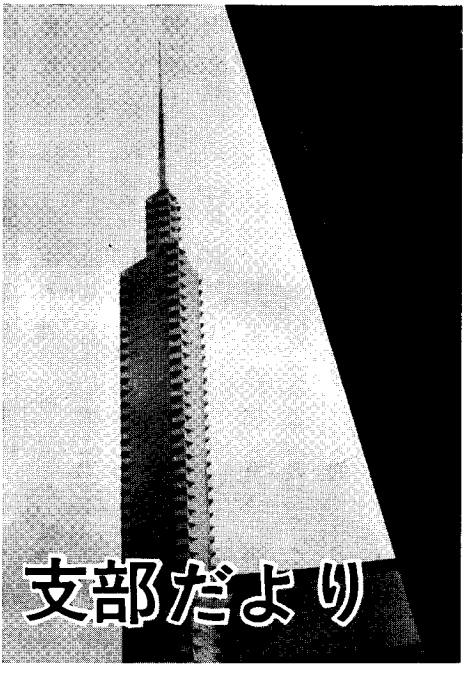
カタヤマ　ヒロシ（教）
マスダ　ヒロフミ（教）
タカノ　ショー（教）
トダ　マサカズ（執）
ウノ　ヒロシ（執）

松本

原　正国（執）
森　広（執）

名古屋

日坂　光二（教）
大野　正宣（教）



阿倍野支部

扶助協会、七月十八日古い教会堂での最後のバザーを行いました。前日に神権者達が会場の飾り付等を御協力下さいましたので、良い雰囲気のもとに開かれまして姉妹一同感謝致しております。

食堂のメニューは、ちらし寿司、おでん、スパゲティーミートソース、冷しうどん、ジュース、かき氷をしました。暑い時期でしたので、かき氷はこの日の花形でほとんどのお客様が召し上りました。

手芸品の売り場も良い成績が上りましたのも日頃、姉妹たちが良く協力されましたお蔭で、中でも伝道部からお教えいただきましたハンプティーダンプティーまくらは小さいお子様方にとても喜こばれ人気のまとでした。

元の教会堂が七月二十日よりとりこわされていますので、神権会、日曜学校は中之島中央公会堂、MIAは円山小学校、扶助協会の会場は教会近くの「むつみ会館」の一室と夫々借りて集会を開くことが出来まして一同感謝致しております。六月より九月までの夏の期間も毎週熱心な姉妹たちが集まりまして昼の部、夜の部共に続けております。第一週は訪問レッスンと文学レッスン、二週から四週まではお仕事会のプログラムでそのうち一週はお料理又は生け花をしております。

旭川支部

今日は皆さん。今月の旭川支部は書くことがいっぱいあって困ります。会員たちが皆活発になった証拠だと思います。それで、ガメツクして建築資金を集めたことと、学生や先生たちの夏休みを利用して一生懸命福音を勉強していることについてお知らせしたいと思います。では始めに建築資金募集のためのバザーのことについてお知らせします。このバザーについて旭川支部は本当に神様より恵を受けました。七月の二十一日、二十二日は旭川の郷土祭ですのでほとんどの会社は休日になります。それでこの二日の休日を利用して教会堂と近所にある常盤公園に於て食事バザーを開きました。七月二十一日、この日は本祭りでお天気はカラリと晴れ上って絶好のお祭り日和です。公園の会場前の人通りはものすごく、あちらこちらの木にはりつけられたバザー会場案内の真赤な矢印に引きつけられてとうとう会場までつられて来た人も多く、宣教師たちが一日がかりで作ったアメリカンクッキーも、姉妹たちが朝五時に集まって用意した食事も好評で、本当に多くのお客様が

入ったので、少し多めに用意した食事も足りなくなり、何度追加しても二日間ともこの調子でしたので、終りの時間を早目に切り上げたぐらいです。

会場準備のために又、その他の連絡のために汗ダクになって働いて下さった神権者の皆様に又、出勤があって一時間しかないお昼休みにも手伝いにかけつけて下さった姉妹たち又、種々計画して下さいました支部長会、扶助協会会長会の方々にお互に感謝し合うと共に、すべてに導を与えて下さいました神様に心から感謝しております。おかげでバザーは大成功で売上は十三万円以上で純利益は五万五千円以上にもなりました。これらはすべて建築資金になるはずです。

では次に先生や学生の方たちの夏休みを利用して七月の三十一日から八月の八日まで教会に於て午前、午後、夜間と三回に分けて福音研究特別集会を開いております。講師には地方部より三人の本職の先生方を含めた方々を、お招きしております。午前中と夜の部は聖書を中心とした福音研究で、午後の部はスポーツや掃除会などを行なっています。平均出席人数は午前中十五名程度、夜の部は十一名程度です。今日で三日目が終ったところですが最初は小樽支部の潟沼兄弟より教会の歴史と救いの計画についてレッスンを受けました。会員たちは真剣そのもので熱心にメモなどして教える人の上にも学ぶ人の上にもすばらしい神の御霊が下っていたことを物語りました。三日目潟沼兄弟のレッスンが終った時潟沼兄弟の心からの証詞を聞くことができて、レッスンを受けていた私たちはそれぞれの証詞を強めることが出来、又このモルモン教会を知っていたという幸せを心から感謝致しました。

この後札幌支部の三兄弟より種々レッスンを受け、特別集会の最後である八月八日の夜柳沢北海道地方部長と四人の講師の方々と共に総まとめのパーティーを開くことになっております。このように発展途上にある旭川支部はすばらしい計画を持ちました。私たちはこれらの集会の上に主の御霊と導と恵が豊かにあるように願っております。どうか他の支部の会員の方々も旭川支部のために声援を送って下さい。では又来月まで。

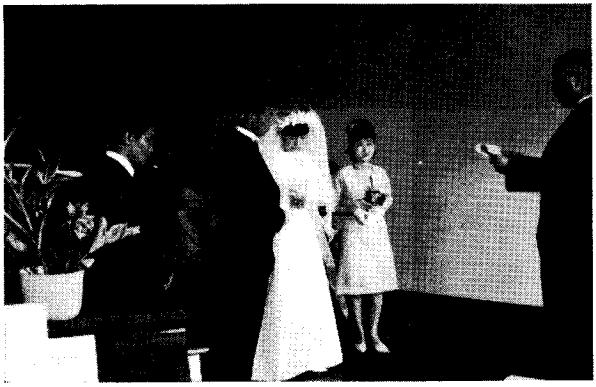
名古屋支部

暑かった夏も過ぎ、銀杏の木の葉も益々色づいてまいりました。各支部のみな様、おかわりございませんか？　私たち名古屋支部は益々元気一ぱいに頑張っております。

結婚式あり!!

いかなる立派な神権者といえどもやさしい姉妹の力なくして、神権を正しく使うことは出来ません。愛を分ち合う結婚こそ私たち末日聖徒の理想なのであります。

五月九日（土）山田勝康兄弟・飛田寛子姉



妹の結婚式が支部ホールで沢山の参加者を迎えて行われた。

当日は狭いホールに緊張の中にもうれしさがかくしきれずそわそわ……。

柳田藤吉西中央地方部第一副地方部長司式のもとに儀式は執行され、続いて土田勝兄弟の司会にて披露パーティーに移った。

パーティはなごやかに行われ、大室兄弟のお好みにより、山田兄弟が姉妹に、ウェディングケーキを一口与え、満場の喝采があり、兄弟姉妹が共々二人に喜びの言葉をかわしている風景は実に見ていて楽しかった。

私たちは心から山田兄弟姉妹におめでとうと申したいと思います。

人命救助か？

まあこの写真を見て下さい。日坂潔兄弟がおぼれて死にそうです。柳田喬夫兄弟が人口呼吸をし、生命の回復に懸命です。でもあわてないでください。実はこれは神権者の活動の一つのデモンストレーションです。

八月三日（月）私たちの支部では内海へ海水浴に行って来ました。ただ今の人命救助のデモンストレーションや、すいか割りなど楽しいゲームがあり、有意義に楽しく行なわれた。

婚約発表あり!!

また嬉しいお知らせ一つ、山本修兄弟と三浦和子姉妹が九月二十三日に御結婚されます。兄弟は名古屋支部で長らく日曜学校の会長をなさり、第二副支部長そして現在地方部評議員をなさっておられ又姉妹は福岡支部でパートタイム宣教師をなさっておられます。

皆さんの多数参加を希望します。

（白木記）

西宮支部

各支部の兄弟姉妹お元気ですか。

当支部の美しい庭も緑に緑を加え、いよいよ夏を感じさせてくれます。木々は蟬の良き休息場所であり、蚊の格好の隠れ場所でもあります。（蚊は西宮支部の名物です）

西宮の地にお城を建てることが願いという坂井支部長を迎え会員一同大いにはりきっています。その数々の記録を紹介させていただきますと

○七月十二日の聖餐式にアンダーセン伝道部長をお迎えしました。この日は廊下にまで椅子をならべる程に会員が出席し、モルモンフェイスを輝かして伝道部長さんのお話しに耳を傾けました。

○二人の姉妹が地方部宣教師に召されました。召されたのは、御両親の強い反対を押して二年間の求道者生活に終止符を打たれた有村姉妹、会員生活は半年足らずと短いけれども強い証詞の持主芦田姉妹のお二人です。彼女たちの熱心な伝道により早や一人の姉妹がバプテスマを受けられました。

○七月二十三、二十四日近畿五支部合同の開拓者記念キャンプが仁川ピクニックセンタ

ーで開かれ、地元でもあり西宮支部では四十名近い若人が出席し、尊い私たちの先輩に心よりの感謝を捧げ、讃美し、証詞を強めることが出来ました。（おかげで顔の皮が薄くなった人もありましたが）

○教会の土台となるべき神権会も最近は出席率八〇％以上という好成績で、姉妹たちも心強いかぎりですし、ＭＩＡも来年度に備えて役員の改選がありました。

又、ホームティーチングも、扶助協会の家庭訪問も以前にも増して活発に行なわれております。

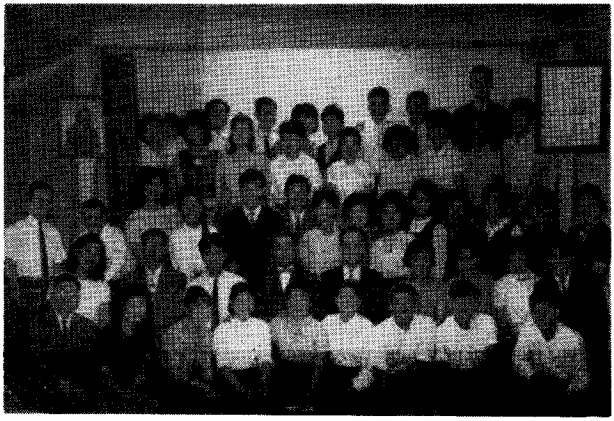
高城兄弟会長、豊島姉妹副会長の良きリードのもとにフェローシッピングもますますその働きを増し、委員たちも新会員の、求道者の良きお友達となって活躍しております。

この様に西宮支部会員一同、一日も早く教会堂の建てられんことを願って、主の御わざのために今日も励んでいます。

ますます暑くなりますので兄弟姉妹、生水を飲みすぎないよう、お体に気をつけて下さい。では、又

（宮本律子姉妹記）

仙台支部



毎月この御霊にみちた小冊誌が私たちの信仰と行いとを高めさせてくれます。〝聖徒の道〟を手にする愛する兄弟姉妹の皆様お元気ですか。仙台支部では本当に朝夕涼しくなった今頃、会員一同平和の中にも活気にあふれてそれぞれ励んでおります。去る八月六、七、八日に行われた仙台七夕まつりは、私たちにとっても喜びと思い出の多いものでした。というのは、七夕につきものの雨（ひどい夕立）のため露天に出した氷店さん、絵はがきうりはてんてこまいし、雨のおまけにカミナリのものすごい中を、教会の〝バザー〟支部予算を得るため教会員たちはがんばりました。七夕の最後の夜に阿部順夫兄弟、順子姉妹に長女がおうまれになりました。紙谷支部長家のおめでたにつづいて本当に神のめぐみにみちたこのごろです。順子姉妹のお母さま塩千鶴子姉妹もわかくてきれいなおばあさんになったわけです。七月九日の安息日には、夏季休暇をいただいてか仙台に青春時代をおくったところの上野道男兄弟、阿部千恵子姉妹をむかえて、本当に東京の新教会堂建築に関する尊い証を聴く機会があり、私たちの心は神の愛にみたされました。私たち仙台支部ではまだ新しい教会堂は建てられませんが、一刻もはやくあのまっ白な美しい神の祈りの家を我らの手自らで創りたいと熱望しています。

話はもどりますが、七月六〜十三日の一週間仙台支部大会でした。ＭＩＡでは映画の会を催し、きれいなアメリカの写真などたのし

く見ることができました。安息日の支部大会は、多くの兄弟姉妹が出席してあの広い(?)ホールにすわる椅子がなくなった位でした。今井地方部長をおむかえしました。

支部大会のあと例年のようにキャンピングが行われました。開拓者記念として草木の茂るキャンプしにくい所をえらんでなま木で指を切ったり草をかって地ならして地を平にしたり本当に毎年ながらキャンプはいいものです。開拓者の記念日はとくに仙台支部にとって二重の喜びの日です。紙谷支部長のX回目の誕生日なのですから。

七月三十一日子供日曜学校の涼しいパーティーがひらかれ、ゆかたをきたかわいい生徒たちが、同じようにゆかたをきたきれいな先生たちとともに日本のフォークダンスすなわち〝ボンオドリ〟をおどった。夏の華かな花火大会、盆おどりなどもおわってしまい今は夏もおしまい、夏休みもおしまいらしくなってきました。仙台支部に夏休みで帰ってきている地方の兄弟姉妹とももうおわ別れ、又夏休みのはじめに大きな期待と、やっとためたお金とを持って一人旅〝遠くへ行きたい〟を実行した兄弟姉妹たち。おみやげものも皆に配ってあとは残ってしまった宿題、平凡な仕事仕事!!しかし私たちはモルモンですからもちろん毎日本当に幸福なんです。

(塚原則子記)

京都支部

全国の兄弟姉妹達、御気嫌如何がですか。この身の焦げるような暑さの中にも負けず私共は、すばらしき神の御国建築に、即ち、京都支部の教会堂をもつために、互いに協力出来ましたことを、この上なく嬉しく、又喜びに絶えませんので、すべてを主に感謝致しております。支部の改築は7月9日から始まりまして、まず、各部屋の利用分け、ホール求道者室、図書館など、割り当てられました。そして壁をくずしたり、柱を取りはずしたりすることに、2、3日費やしました。その後数日程経って、建築宣教師の杉山、小林、小泉長老達がリードして下さいました。この三人の宣教師に支部の会員すべてがお礼を申し上げたい気持で一杯です。本当に有難う御座いました。玄人として、キャトウィック監督宣教師を加え、たった四名ですのに、いま出来上った会堂に楽しく集っております時、唯々〝すばらしい〟の一言に尽きるのです。京都支部の兄弟姉妹達の協力性は自慢出来るのではないでしょうか。MIAの仁川キャンプ大会のありました時も、兄弟姉妹達はガンバッておりました。又、もう一つ私の自慢出来ることは、支部の兄弟姉妹が、その奉仕の労働が一時間につき百七拾円で支部の建築資金に加算されるということを知らずに一生懸命働いたことです。彼等の無報酬の奉仕精神は自慢出来るのではないでしょうか。又神さまの尊い〝みちびき〟がありましたことも忘れてはなりません。私共各自が、その労働をしているときに、感じて証詞を強めることが出来ました。7月26日には出来上がりのまだペンキのにおいのするホールで、最初の神権会日曜学校をもちました。新らしい食堂にもまして兄弟姉妹の顔が輝やいています。

改築されし宮に集いて讃美する
子等の瞳に希望溢れむ

大西三重子姉妹作

京都支部では、片山富夫支部長を頂点として兄弟姉妹達は共に助け合いながら、全ての集会を催しております。ここに久しぶりですが支部の補助組織の総ての役員、教師を紹介させて致だきます。八月廿日現在です。

(支部長会) 支部長片山富夫、第一副岡本亮、第二副神崎良太郎、会計書記高良慎清、

統計書記中村幸二（扶助協会）会長大西三重子、第一副片山満江、第二副長棟富美子、書記山口敦子、教師〝神学〟佐々木真樹子、〝仕事会〟長棟富美子、〝家庭訪問〟丸山克子、〝文学〟大場典子、〝社会科学〟的場好子（ＭＩＡ）ＹＭ会長鳥居定幸、ＹＭ副片山博、ＹＷ会長小山美恵、ＹＷ副長谷川清子、書記野阪真代、音楽教師長井恒彦、演説教師飯島靖二、オルガニスト亀谷テル子、指揮野阪真代（日曜学校）会長中村晴巳、第一副髙野将、第二副久恒正暉、書記和田佳子、オルガニスト植村正子、指揮今川愛子（子供日曜学校）責任者今川愛子、教師鎌田裕子、長棟富美子（フェロシップ）会長中村幸二、副会長的場好子、書記丸山克子、委員宇野博、岩崎要子、片山満江、長棟富美子、山口敦子、安東博通、飯島靖二（聖徒の道）委員増田博文、片山博以上。各支部の皆さん、京都支部の雛を見守っていて下さい。

（増田博文、片山博兄弟記）

那覇支部

支部くわいれ式

奇しくも敗戦記念日に開かる

六月二十三日南国特有の冴えた夕日を背に受けて、アンダーセン伝道部長、市役所識員諸氏、チニー北部極東建築監督の御臨席の許に大城支部長の司式にて那覇支部礼拝堂建築監督ラルセン兄弟、軍のティル地方部長、長嶺地方部長の皆さんによる祝詞と激励の言葉の後、伝道部長はじめ総代による感激の鍬入れが成され喜びに紅潮した那覇支部聖歌隊は「復活」「恐れず来れ聖徒よ」の二曲を捧げ全会衆のほほはほころび霊的な美しい雰囲気のうちに会が閉じられました。

では次に今日の晴れの日までの証の二、三をお伝えしましょう。

一、ラルセン監督はマッケイ大管長より召され六月二十日当地に赴任されましたが、遺憾至極起工式を三日後に控えているものの市の建築許可が下りていなかった事です。三日といえども中一日は日曜日、許可と手続万端に二日間とは甚だ困難な事態になりました。しかしラルセン監督はじめ関係者一同は心に祈をもって奔走し全力を尽した結果、遅れても起工式に間に合せたい一念は、見事間一髪のところで間に合い識員がその場に持参するという珍風景が見られました。二、敷地は七年以上も前から持っており、着工が一年前に予定されていたのが今日に延期したので、その喜びも一潮深い訳けです。従って会員一同断食し共に祈り朝な夕なに兄弟姉妹はその望みを天に届かしめたのであります。次は当地の或るプロテスタント教会は日頃からモルモン教会に友交的で伝道部長自から市役所などへ再々出向いて陳情し、今回は建築基金プログラムにも部長さんはじめ有志の方々によって十四ドルを寄付して下さっております。

最後にペンを置くに当り礼拝堂に恵まれる人々が一様に考えねばならない事はこの偉業は地許会員の力以上に全世界の兄弟姉妹の働きと熱烈な祈りの所以と感謝すべきであります。特に沖縄に於いては今から20年前にはどのような事が起っていたでありましょう。それを想起すべきであります。即ちひめゆりの塔はじめ十九万四千人にのぼる犠牲者の霊を救い、過去、現在、未来に亘って完全な救いが差しのべられるのは私達モルモンの他にないのでありまして実に当地の内情では内地より少し早く敗戦を迎え、それまでの住民の苦闘、幾月も着のみ着のまま破れたものを身にまとい栄養失調も甚だしく荒涼とした地にやっと生命をつないでいる人々の姿を想像して下さい。今後シオンの建設は高価な真珠を手

（584頁へ）

示現

目的　『救われるべきすべての神の子供たちの救いの為の神の計画』

第58課　示　　現（完）

「教義と聖約」76：1－49

テキスト「神学」教義と聖約

1964年11月第1週

序文

イエス・キリストは世の人を罪から救う為に十字架にかかられました。（「教義と聖約」七六・四〇―四二）

この贖いの行為によって彼はすべての人が墓から復活出来るようにしました。（同上八八・二七―三二）この復活という普遍的な救いに加えてキリストの贖いは完全な福音に従順な人に霊的な生命を用意して居ります。この霊的な生命は従順な者を彼らが責任ある年に達した時に罪によって追放された神の面前に立戻らせるのであります。（同上　二九・四一　ヨハネ伝五・二四、一一・二五―二六　教義と聖約六八・二五―二七）

★多くの部屋

この世に曾て住み、現在住み又将来住むであろうすべての人は神の息子たちであり娘たちであります。彼らに対する神の思いやりは無限であります。彼の慈悲深い計画を通じて滅亡の子を除きすべての人が救われるように用意されました。上述の計画を、只キリストを信ずるだけで働らきなくして神の面前に居られると云う間違った考えに比べると義と慈悲を含んでいることが感ぜられます。この事

は特にキリストを受入れる機会のなかった者が霊の世界でそれが出来ることを自覚する時に更にはっきり致します。けれどもすべての人が救われると言っても皆が神の御前に同様の状態を受けることを意味しません、知識、信仰、及び義に於て相違していることを考慮する時、すべての人を同様の水準に救うことは正しくないでありましょう。この教義を宣言してジョセフ・スミスは言いました。

〝私の論題はヨハネ伝十四章一節二節に見出される死者の復活に就てでありますが二節の〝わたしの父の家には、すまいがたくさんある〟は主と共に神の世嗣たるには〝わたくしの父の王国にはたくさんの王国がある〟とすべきであります。私は正直な人又は高貴の心の持主を殺人者や姦淫者と共に地獄に送るメソジストの教義を信じません。けれども私はこれらの憐れな者を或程度救う秩序を持って居り彼らを救ってあげます。何となれば私は若し出来るなら牢獄に人を送って彼らに説教し彼らを救うてあげるでしょうから。

日の光栄の律法を守った人たちの為にすまいがあります。又、律法を守らなかった人たちの為には他のすまいがあります。すべての人がそれぞれ自分の順位に従うのです。生ける者の為に執行するバプテスマなどがありますが福音の知識なくして死んだ者の為のバプテスマもあります。（教会歴史録第六巻三六五頁）

私たちは今イエスが〝天〟には段階があることを教えられたのを学びました。パウロも復活した人の為の光栄の王国の示現を受けました。（コリント前書一五・四〇—四一）

報いと罰の原則は新約聖書の次の聖句に与えられました。

〝少ししかまかない者は少ししか刈り取らず豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。〟

（コリント後書、九・六）

★日の光栄

七十六章の五十節から五十三節迄に主は聖文の中で指摘された最高の天を受けれる人を示しました。ジョセフ・スミスの言葉によれば次のような教えに従う人は日の光栄の天国に入ることが出来ます。

身分の高い人、低い人、富める人、貧しい人、男又は女、牧師、平民、宗教学の教授又は教授でなかろうとすべての人に彼らが充分に聖霊を受けて、この地上に正に起らんとしている神の罰を逃れる為に主が何を要求されて居るかを貴方たちに告げましょう。貴方のすべての罪を悔改め罪の赦しの為父と御子と聖霊との御名によってバプテスマを受け、権能を持った人から聖霊を受ける為に按手礼を受けなさい。これは聖書とモルモン経によるもので人が日の光栄に入る唯一の道であります。これらが新しい誓約又はキリストの福音の最初の原則の要求するところであります。それから〝あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。これからのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者実を結ばない者となることはないであろう。（教会歴史録第一巻三一四—三一五頁　ペテロ後書　一・五—八）

★日の光栄に高められる

日の光栄、月の光栄、星の光栄と三つの王国があるように、これらの大いなる天上には多くの段階又は水準があります。日の光栄には三種の天界、又は階級があります。主は私たちにその最高を得る為には福音のすべての要求に従わねばならないと告げて居ります。

〝日の光栄には、三種の天界すなわち三種の

階級あり。而してその最も高きものを得んために、人はこの神権の位（すなわち新しく且つ永遠の結婚誓約を言う）に入らざるべからず。人もし然せずんばそれを得ることを得ず。人は他の天界に入るを得べし。されど、それはすなわちその人の光栄の国の行き止りにして、また殖ゆること能わず〟（教義と聖約　一三一・一―四）

この日の光栄の王国の三種の階級の最高には昇栄を受ける人が到達します。（同上、一三二・二一―二四）聖文に示され、又予言者が声明した福音の第一原則に従うことに加えて、人は神殿の結婚（新しく且つ永遠の結婚誓約）に入り正しく忠実にとどまって聖霊の結び固めを受けなければなりません。（同上一三二・一九）このパウロによって指摘された真理は（コリント前書　一一・一一）すべての末日聖徒が神殿の結婚、聖なる神権の権能によって夫と妻が結び固められることの重大さを理解することの必要なことを強調して居ります。この儀式なくしては民法による結婚をしても最高の栄に高められないのであります。

すべてのものは彼らのものであります。

七十六章は長子の教会に属する者はその光栄に入ると示して続けて日の光栄の王国に就て述べてあります。

これはこの生涯のことでなく復活後の人の状態を参照するものであることを念頭に置いて、私たちは天父が従順な人にすべての物を支えられることを学び知るのであります。彼らは長子の教会員として御父の栄光の満ち足れるを受けて、祭司及び王となります。この光栄に備えるには男子にはメルケゼデク神権が必要であり、神殿の結婚に於て彼の忠実な妻は神権の祝福を受けるのであります。

すべてのものが彼らに与えられた時に彼らは神々となり、神の息子たちとなり、キリストと共なる世嗣となるのであります。（教義と聖約七六・五四―六一　八四・三五―三八　ロマ書　八・一六―一七）

★昇栄―目標

末日聖は日の光栄に達することが福音の計画の中で最高の目標であると考えて居ります。永遠の生命に就ての前の討議から日の光栄の王国に入ることは、必ずしも完全な能力と栄光をもたらすものでないことが明らかであります。日の光栄又は王国をその王国内の昇栄の意味に用いるならばそれは最高の目的であります。他面人が日の光栄に異なった階級があり、最高の天は神殿とその結婚とその誓約を含むすべての誡命に従う者にのみ可能であるということを無視するなら誤った考えに陥ります。

★日の光栄

日の光栄の王国を受けるすべての人は日の光栄を受ける、何となれば彼らは神とそのキリストの御前にいつまでも限りなく住まうからである。〟（教義と聖約七六・六二）

〟これらの者はイエスがこの世に……来りたもう時、彼に連れられて共に来らん。これらの者は第一の復活に与らん。これらの者の体は日の光栄に属し、その光栄は日輪の光栄にしてすなわち神の光栄なり〟（同上六三―七〇）

その王国内の昇栄はすべての誡命を守る人に与えられるでありましょう。教会内の地位はこの大いなる祝福を受ける資格となるものではありません。ジョージ・アルバート・スミス大管長はこれを次のように言っております。

イエス・キリストの福音の美しいことの一つはそれが私たちすべてに普通の標準でもたらされることであります。日の光栄の王国の最高の位に入る為にステーキ部長或は十二使

徒会員になる必要はありません。教会の中の目だたない小さな会員であっても、若し彼が神の誡命を守るなら、日の光栄の他の人たちと同様に昇栄を受けるのであります。イエス・キリストの福音の美しさは、私たちが主の誡命を守る限り皆平等になれることであります。

私たちが教会の律法を守っている限り、最高の栄に高められる為に同等の機会を持っているのであります。私たちが信仰と義に生長する限り、私たちの光は導きとなって照らし私たちの交る人に祝福が及ぶのであります。（一九三三年十月大会報告　二五頁）

★すべての人の為の機会

予言者ジョセフ・スミスが受けた最も情報的な啓示の一つは一八三六年一月二十一日、カートランド神殿で与えられた示現であります。予言者は、日の光栄の王国内の丁度炎のような輝ける神の座を見たと言って居ります。そこで彼はこの生涯で福音を受ける機会を持たなかった人たちを見、又彼らがその王国に居る理由を知ったのであります。この地上に居る間に福音を知り受け入れる機会なくして死んだすべての人は霊界に於てその機会を持つとの〝声〟が宣言した。若しも彼らが地上に居る間に機会を与えられ福音を受け入れたであろうなら、それを霊界で受け入れることによって日の光栄の王国の世嗣となるでしょう。主は〝すべての人をその行為によって又彼らの心の願いによって審くでしょう〟（教会歴史録一一・三八〇―三八一頁）

★働らきに応じて

すべての人に機会が与えられて居ります。けれどもすべての人が最大な祝福をもたらす完全な律法を守ろうとはしません。或者は地上に居た時彼らの責任であった律法を守らなかった為に昇栄及び日の光栄の機会を失ったのであります。御父の慈悲深い計画は、ジョセフ・スミスによって次のように述べられました。

人類の一種族が無慈悲に他の種族を審き非難するのに反して宇宙の偉大なる親は親心を以て全人類家族を見ます。彼は彼らすべてを我が子と見なし人の子らを傷つけるような偏狭な心を持ちません。彼は悪い者の上にも良い者の上にも太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らして下さる。彼はその手に審く権能を握って居り賢明な律法を与える者であります。彼は狭い人の考えによらずに〝善か悪かその行為が英国、米国、スペイン、トルコ又は印度何れの地に於て為されたとしてもその為した行為によって〟すべての人を審くでありましょう。彼は彼らの持たざるものでなく持てるものに応じて審くでしょう。律法なくして生きた者は律法なくして審かれ律法を持てる者はその律法によって審かれるでしょう。私たちは偉大なるエホバの英和と知恵を疑う必要はありません。彼はすべての民をその功績によって、英知を得た手段、治められた律法、正しい情報を得る為に彼らに与えられた設備、人類家族に関する測り知れない計画によって審くか又は恵みを与えるでしょう。そして神の意図が明らかに未来の幕が取除かれた時私たちすべての者は遂にこの全地の審きが正しくなされたことを告白するでしょう。（教会歴史録第四巻、五九五―五九六頁）

★子供たちの救い

この世又は霊界の何れに於てもすべての人が福音を聞く機会があると啓示されたカートランド神殿に於ける同じ示現の中で〝声〟がジョセフ・スミスに次のように宣言しました。〝私は又責任を自覚する年令に達する前に死んだすべての子供たちが日の光栄の王国に救われているのを見ました。〟（教会歴史録

第二巻　三八一頁）

この真理は日の光栄の王国は〝数限りなき天使の群〟を構成するという七十六章六十七節に一致しこれを解釈するものであります。

★月の光栄の王国

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが見た次の示現は月の光栄の王国であります。これは月輪の光栄の大空に於ける日輪の光栄と異っているように日の光栄の王国と異っています。この王国も無数の群勢から成立しています。（教義と聖約七六・九一―九二、九六―九八七一）これら月の光栄の人々は記されたように〝世に在りては正しき者なりしも人間の巧智によりてその眼を暗まされたる者なり〟彼らは地上に於て責任のあった律法には生きたけれども地上に於ても霊界に於ても満ち足れる迄には受けなかったのであります又この王国には〝律法無くして死んだ者〟も居ります。（同上　七六・七二―七五）

これらに加えてここにはほまれある生活をした末日聖徒ではあるけれど真理の完きに無関心であった或聖徒たちが居ります。啓示の言葉を以て表現すれば〝これらの者はキリストの証をなすに雄々しからず、この故に彼らはわれわれの神の王国の冠を得ざるなり。〟（同上七六・七九）その冠を得ることは彼らの特権でありましたが主の仕事に対する冷淡さが彼らの生活に優勢な地位を占めていたのであります。

これらの者は御子の臨在を受けます。（教義と聖約七六・七七）

特に聖文の声明はないけれど月の光栄の内にも階段があって、その王国内の前進は可能であるということは当然考えられることです。（ジェームス・イー・タルマッジ信仰箇条の研究　四〇九頁）

★星の光栄の王国

光栄の三つの段階で最も低いのは星の光栄であります。そこには無数の差異又は階級があります（教義と聖約七六・九八　コリント前書　一五・四一）この王国には地上に於て悪人と記された者、即ち偽りを言う者、魔術を行う者、姦淫を行う者たちが割り当てられます。これらの者は福音を受け入れず、イエスの証詞も予言者も受入れなかっ者たちであります。彼らは小ざかしい人智による制度に従う者であります。（教義と聖約　七六・九九―一〇六、八一―八五）これらの者は福千年の終りの第二の又は全般的な復活の最初に彼らの墓から出て来る者たちであります。

このような咎められる状態から出て来ても彼らは霊界で潔められて〝人智の計り知らざる〟（八九節）光栄に入る準備をしたのであります。彼らは月の光栄にある者又は彼らに導きと教えを与える為に任命せられた天使たちの施すによって聖き「みたま」を受けます。（八八節）この光栄を受入れる人たちの数は海辺の砂の如く多数あります。（一〇九節）

星の光栄、及び月の光栄の王に入る為に特別な儀式があるとしてもそれはまだ啓示されて居りません。最初の水によるバプテスマ、聖霊の賜を与える按手礼その他末日聖徒に知られている儀式は日の光栄の為だけのものであります。

★福音の偉大さ

福音の寛大さの模範は月の光栄の場合に、従順の最大なる賜は神と共に在ることを信じる、或はほまれあるクリスチャンによって与えられます。若しもほまれあるならば彼らは今の希望を受けるでしょう。何となれば彼らは月の光栄をもたらした律法にだけ生きたからであります。他面これらの啓発されたクリスチャンで彼らの律法に生活しなかった者は星の光栄に自分を見出すでしょうが啓発さ

れない異教徒で彼らの律法に生活した者は、月の光栄の律法を受ける機会を与えられます。そして若し彼らがそうするなら彼らの将来の住居は月の光栄の王国となるのでありましょう。

月の光栄及び星の光栄に属する人たちを参照する時、主はすべての人にイエス・キリストの福音を聞く機会を与えるであろうことを記憶すべきであります。日の光栄への機会は、すべての人に開かれて居ります（教義と聖約一・二、一二八・五）

★結論

人類の救いを願い、その為に働らき、人類の贖いの主の下に召された私たちにとって神の啓示によって、若し現世でなければ来世に於てすべての贖われる人が暗黒、悲しみ、地獄、死から、つれ出されてその生存を喜び神を崇めその誠命を守れる場所に置かれるであろうことを知ることはほんとに満足を覚えることであります。

神の律法は永遠であります。それは永遠に続くものであり確乎たるものであります。そしてこの律法に従ってのみ昇栄は確保されるのであります。この条件の下に私たちは神の啓示し給うた律法に従うべきであることを学ぶのであります。又同様に私たちが治められるところの政権の設定した健全な規則及び規定にも従うべきことを知るのであります。

（ペンロース・チャールス・ダブリュー、一九〇一年四月大会報告、四二―四三頁）

考察の為の質問

一、人々は異った報酬を受けるであろうと言う教義に就て討論しなさい。

二、日の光栄を得る為に、日の光栄の王国に於て昇栄を受ける為に必要な或事項を示しなさい。

三、神殿の結婚の重要さに就て論じなさい。

四、来世に於て最高の栄えに高められるのに教会内での高い役職が必要でしょか？

五、月の光栄の王国を誰が受嗣ぐでしょうか星の光栄の王国を誰が受嗣ぐでしょうか。

（545頁より）

は、死んだ人が霊として生きている人々にあらわれたという出来事がはっきり示してある。サウルとエンドルの「みこ」（口よせ）との物語はうそいつわりではなく、サムエルが「よび出された」のではなくて本当は多くの霊が存在していたというはっきりした事実である。またラザロと金持ちの男とに関する「救い主」の話はこの事実（霊が存在するということ）を証明している。「贖い主」は、もしも真理に基づいていなければ、このように深い意味のある仮作の物語をなさらなかったであろう。もしも事実霊がなかったなら、ラザロと金持ちの男というような重要な意味のある想像上の話を「神の子」（イエス・キリスト）がお話しになったことを心ある人は非難したであろう。もしも、主の弟子たちが主が復活の後かれらに現われたもうたときおろかな考えをもっていて、主がかれらに現われたもうたとき霊を見ているのだと思っていたのに（事実）霊がなかったなら、主は（前以て）かれらに霊はないのだとはっきり話してお置きになったであろう。（しかし）実際主イエスは彼らに何と言われたか。「わたしの手や足を見なさい。またしくわたしなのださわってみなさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」（ルカによる福音書二十四〇三十九）主イエスのこのことばは、あらゆる論争に終止符をうつはずである。

文学としての聖書――第二課

聖書の背景

扶助協会レッスン・文学　一九六四年十一月　第三回目の集りに

クラスの指導者は、このレッスンでは聖書は単に文学として考えられていて、神学上の疑問を解釈しようとしていないことをいつもおぼえていなければならない。

目的―聖地の地理の重要な特性を紹介して、民族とその文に自然の環境が及ぼす影響を指摘すること。

「聖地（パレスチナ）の地理」

わたくしたちの大部分は聖地（パレスチナ）を通って旅行をしたことがありませんから、できるだけ（のことをして）それにかえなくてはなりません。聖書にしるしてあるいろいろな経験を「真にせまってありありと」させる感じを助けるものなら、何でも私たちの助けにもってこなくてはなりません。わたくしたちが聖地「パレスチナ」そのものをありありと見て、聖書にしるしてある民族の生活におよぼしたその地理的な影響がわかればわかるほど、わたくしたちは一層確実な理解と認識とを以て聖書を受け入れ、クリスチャンとしての信仰が一層固くなるにちがいありません。

或る土地の色彩（色のつき工合）はその土地の忘れがたい印象を与えるために大切であります。わたくしたちはこの一般的な光景がその土地のほかのもっと大切な特色の背景になっていることをおぼえています。聖地（パレスチナ）の色彩はふつうではありません（めずらしいものです）。

聖地の端にあたる境界線の部分は淡い、いろいろの色合をしているということですが、また濃い褐色のしまをしている地層があるということです。そのほかのしまには濃い赤、紫、黄、黒などの色をしているものがあります。下の方の地層は青味がかった灰色が勝っていて、その中を通っている色のついたしまはすばらしい装飾的効果をあらわしています。（聖地は）その土の色そのものが人目につくばかりでなく、また植物の色も人目につくものがあります。ユダヤというところはほとんど信じられないほど色彩の豊富な土地だとの旅行者も言います。南の方には豊かな果樹園と農園のある肥沃なヘブロンの盆地があり、北の方には円くなった丘の間をうねってサマリヤの谷があり、これらの丘の段丘にはぶどうの樹が一ぱいに植えてあって頂上にはかんらんの木がそびえています。そしてこの部分の土地では一ぱいにしげった植物の緑の間を縫って、淡い紅色がかった灰色の粘土といろいろな色彩の石が顔を出しています。

サマリヤの平原は度々黄色の霧でおおわれますが、その時にはサマリヤの平原のもって

いる自然の赤い色でサマリヤの平原が血の畑になったように思われます。ところがサマリヤの平原はかって東半球の世界の大戦場となったことがありますので、この現象は（見る人にとって）忘れられないものであります。（ところが）星移り物変って、この土地は再び血しおに浸される戦場になっています。

旅行者たち（のことば）によると、ガリラヤでは石灰岩層の色が、空の青さに強調されてつや消しの銀の色を出す（ということです）これは雪におおわれているヘルモンの山波をつつむ雲に日光が当るとき特にそうだ（と言います）。フェニキヤも、ほかよりも高いところのある盆地の中を、肥沃な黒い土を縫って珍らしい岩石が顔を出していても大体において白い色をしています。これらの岩石は卵形をしていて美しい深紅色です。チレは収獲時になると、大理石のように白いがけの下にある黄色の小麦畑はほんとうにすばらしい色彩をしているということです。シリヤのある部分では、黄青緑がかった色合の微妙な色が、風景の上にうすく塗られているようだと言われています。ほかのところでは、ふつう横じまになっている色が垂直の地層の中に走っていて、赤と緑の糸が巧みに織り合わされているインディヤンの巨大なショールのようにひろがっています。（聖地では）水の集りさえも色がちがっていて、ガリラヤの海は淡青い色をして居り死海は淡い緑の色をして居ります。

ヨルダンの東の色は灰色と青とライラックの色（薄紫）です。春になると村々の近くでは野の草（アヤメ属の花または野の百合など）がじゅうたんをつくります。聖地の花はあらゆる色をしています。緋色のけしあり、深紅色のあねもねあり、青色のとうもろこし（の花）あり、黄色のきんせんかあり、白色のすいせん（シャロンのばら）ありというぐあいです。

（聖地では）動物の世界さえ凝（こ）った色彩計画に従っています。たとえば、とかげはいたるところでまわりの色と同じ色をしていて、石のような灰色、赤またはクリーム色になることができます。カメレオンやかめ（の一種）などもまわりの色と同じ色になり硫黄泉の中では青（味がかった）色となり、泥の州（す）の上では褐色かスレートの色となります。

聖地には無数の泉がありますが、その一つのあるところにはどこでもオアシスの目もあやな緑の色が見られます。ヨルダンの谷は薄青い山波の間をうねる緑の蛇のようだと（昔から）言われています。ダマスコは濃い緑のビロードのじゅうたんの上に休んでいるように見える、多くの色をした尖塔をちりばめた人をみわくする白色の都市であります。そこから淡紅と黄の色がのびて次第にうすくなり、果ては多くの丘の薄紫色の中にとけ込んで行きます。

太陽はシリヤに魔法使いのはたらきをします。太陽はシリヤのある部分を飾っている雲母（きらら）に当って宝石のような輝きを出させます。それは強い光と影の部分とのきわ立った対照を見せ、夕日の光はかんらんの木立をあかね色にぱっと輝やかせて白いがけを肉色の大理石に変えてしまいます。

アジアの西南部にあるパレスチナは、その西の方で地中海に接して居り、北の方でレバノン山脈に接して居り、東と南は砂漠に境を接して居ます。パレスチナはたった一万平方マイルの面積をもつ小さなところであります。そして、その長さは百四十マイル、巾は五十マイルであって、エルサレムのすぐそとにあるオリヴの山の上に立つならば、西の方には地中海、東の方には死海とヨルダン川と

を望み見ることができます。

気候の大きな差と自然の特徴とは、それに応ずるいろいろな種類を植物界にも動物界にもつくり出します。（パレスチナには）百十三種類のほ乳動物と、三百四十八種類の鳥と九十一種類のは虫類と両せい類と三千種類以上の花を咲かせる植物があります。

聖書のいちじるしい文学的特徴が、自然から引き出したその美しい言葉の姿であることは少しも不思議ではありません。

多くの点でパレスチナは対照の国であります。パレスチナはほかの世界と遮断（しゃだん）されていても東洋からの大道はその中を通っています。（遮断していると言えば）パレスチナの東と南には砂漠があって交通をさえぎり、西の方にはほとんど航行のできない地中海がひかえています。パレスチナにはこのような障壁のあるほかに、深い断崖絶べきのある山々があって交通がひじょうに困難であります。それにもかかわらずパレスチナには古い世界の高い文化が内に保たれています。

「ヘブライ民族の性格に及ぼした自然の背景の影響」

人間同志の関係から、また人間と物質の世界の関係から人間というものをあらわしている大文学を研究するに当って、その物語または劇の背景をなしている自然は重要な（要素で）あります。（なかでも）選ばれた民、イスラエル民族の歴史に及ぼした地理（的要素）の影響はとくにいちじるしいものであります。土地の小さいこと外界から孤立していることによって、ヘブライ民族の中には彼らが世界に貢献する大切な（要素となった）特徴が生じました。もしもパレスチナがふつうの世界同胞主義をとり入れたとしたならば、またもしパレスチナが偏狭、頑固、不親切になる影響と一層密接な接触を受けていたとしたならば、選ばれた民、イスラエルの物語はひじょうにちがったものになっていたでしょう。

ある作家は、選民イスラエルの文学に及ぼした環境の影響を論ずるに当って、無数の丘の力と、高地の空気の特有の味と、広い地平線とがヘブライ民族の意志をどのように力づけ想像をどのように刺戟し、性格をどのように形造ったかを示し、また遊牧生活の初期における「近親結婚」と鍛錬とが、神が彼らに与えたもうた仕事を為しとげる力のあるたくましい民をどのようにしてつくったかを示しています。

近代に神の選びたもうた民である末日聖徒がロッキー山脈の盆地に外界と隔離されていたことは、イスラエル民族の場合と同じようにまことに意義のあることであります。もしも末日聖徒が、教会が将来を形づくる大切な初期の時代に外界から隔離されていなかったなら、その独特な歴史を努力して形づくることができたでしょうか。

聖書は（イスラエル）民族の展開をあらわし、その「生き方」の展開に及ぼした地理的（要素）の影響を示して居ます。彼ら（イスラエル）の最も美わしい詩は、人の知恵によらずいつも自然の荘厳さと神秘とによって霊感を受けています。次にその多くの中から一例をあげましょう。

「もろもろの天は神の栄光をあらわし、
大空はみ手のわざを示す。
この日言葉をかの日につたえ、
この夜知識をかの夜につげる。
話すことなく、語ることなく、
その声も聞えないのに、

その響きは全地にあまねく、
その言葉は世界のはてにまで及ぶ」
（詩篇、第十九篇、一―四）

わたくしたちは（詩篇の）詩人が肌を焼く暑さから、オアシスと流れる小川の慰めに（その心を）転じたときに、詩的想像に及ぼした環境の影響がわかります。

「主はわたしの牧者であって、
わたしには乏しいことがない。
主はわたしを緑の牧場に伏させ、
いこいのみぎわに伴なわれる」
（詩篇、第二十三篇、一―二）

以上（第二課の）短い考察には二つの計画がありまして、その一は聖地（パレスチナ）の物質的特徴に関してあるていどの知識を与えることであり、その二は、ある土地の地理（的要素）が（その土地の）民の生活と、その民がつくり出す文学とに及ぼす影響を示すことであります。

レッスンの助け。

㈠　聖地（パレスチナ）の地図を示して、聖書の文学の中に多くの出てくる地理的特徴を指摘しなさい。

㈡　できるなら、いろいろの絵画を集めて、パレスチナの地に住んでいた民と、早いころの生活の典型的な活動とを示しなさい。たぶん聖地を訪ずれたことのある人は、その土地とユダヤ人の生活に典型的な習慣を論ずることができるでしょう。

㈢　聖書の詩から抜き出して文学に及ぼす自然の環境の影響を示しなさい。

建築宣教師の友へ

東京の夜は心良い風がほほを伝わって行きあたりは虫の声が秋の訪れを告げている。しばらくぶりだが元気に働いていることと思う。

君たちの働きによって白亜の殿堂が日本の各地に建てられているかと思うと本当に感謝でいっぱいだ。

思うに、君が建築宣教師に召されてから早いもので二年の月日が流れようとしている。宣教師に召されたときの君は、将に日本の地に於ける開拓者と思った。

君の神への従順な心と謙遜な気持、更に愛に満たされた態度は、その後早くも実を結ぼうとしています。

その実は日本における初穂として結実しているのです。

西支部、北支部にはじまった建築の槌音は日本の各地に拡がっていることは僕たちモルモンにとってなんと喜ばしいことであろうか。その槌音とともに「神は真に生きてます」という信仰が君の心にますます高鳴っているに相違ない。

二年に及ぶ君や同胞の力がここに見事に結んだのだ。

君が額に汗し、体につくった生キズで得た信仰は何にもかえがたいものとなろう。

この日本に於ける建築計画は君たちの働きによって成功を納めている。

その燃ゆる信仰が第二、第三の神への証人が召される大きな助けとなることを確信している。

あと残り少ない日数を心おきなく頑張ってくれたまえ。その大きな経験は君の将来にとっての大きな「礎」となることだろう。

もう夜はふけてしまったようだ。今夜はこの辺で　では又　元気で

九月七日夜

神の律法と教会制度

教会制度の機能

第十六課　家族関係に於ける神の律法の機能

社会科学

目的　立派な行為を通じて家庭内の神権の尊重がもたらされることを指摘する。

〝……柔和を以て家を治め然も毅然たれ〟（教義と聖約三一・九）

一九六四年十一月第四週

〝……私は主人、父親及び夫に対し貴方方が管理する人たちに親切で思いやりのあるようにすすめます。そして彼らをしてよく従うように妻は夫に子供たちは両親に従うようにさせなさい〟（ブリガム・ヤング説教集一・六九）……父親を家長とし、家族の主人公としてそして彼をして家族を取扱うのに天使が家族を取扱うようにさせなさい〟（同上四・五五）

末日聖徒イエス・キリスト教会の組織力は、価値ある男子会員の上に置かれた権能にあります。この神権と同様に教会を成功に導いているものは、この権能がそれを持つ者によって正しく適切に家族全体に適用されている時に末日聖徒の家族の内に見られる健全な成功的な力強い実生活そのものであります。

伝統と教会の教えによって父親は家族の長であります。家族の監督の責任は神権を持つ者の手にあります。その指導者の責任が大切であります。

神権の力又は権能の基礎は愛であります。愛は他人を考慮することであり彼らの幸福な生活に就て責任をとることであります。家長は各家族員に対する思いやりのある暖い指示と忠告と忍耐を以て、指導者としての責任を果すべきです。実際に於て彼が家長として又イスラエルの長老としてのお召しの成功は彼自身の家族にもたらした成功に見られます。このようにして社会活動の時期に父親は彼の周辺の人たちの安定の柱となり、智恵と忠告の力となるのであります。けれども彼のすべての指導力に於て特に実族の責任に於て彼とその妻とは一体であります。

神権を持つ父親としての役割に期待される大切なものとして、

一、子供を教え訓練する機会を充分に用いる。屢々これは唯母親の手にだけ任せられる。そして多くの場合に成功しているけれど神権者は妻にだけ子供の教育を任せる理由はない。共にその責任をとるべきであります。

二、彼は家族全体にも又家族の一人々々に対しても、その秩序と適度の訓練の責任を持って居ります。家族の者は他の如何なる社会に於けるよりもよく責任ある行動を学びます。すべての子供は他の者の権利を尊重し指導者を尊敬することを学び最も大切なことは、子供たち各人が自分が指導者になるには、先づよく従う者とならねばならないことを学ぶことであります。そこには野蛮な暴力や笞を用いてはなりません。けれども適宜、手で打つことは子供がその人生に於て、ひるまない強い性格をつくります。家族内での指導者たることは知的な人たちを強制的に従属させることの口実とはなりません。神権は命令又は不義の支配として解釈されるべきではありません。却って神権は人の最上の表現と経験は、すべての家族の為の愛と助言と思いやりと理解とつれあいの気持を通じて得られることを見る責任を伴います。

三、家長又神権者の第三番目の責任は、聖文の中に屢々語られる一体感の精神の育成であります。これは愛と理解を通じて一体感又は目的の共通性をのばすことによって完成されます。〝汝ら一体ならずばわがものにあらず〟に表現された考えは先づ教会の基礎である家族に適用されます。神権は家庭内で単に指示する権能を現すだけでなくそれは指示し、すすめ、勇気づけ、知恵と愛の内に共通の理解及び一体に導く義務でもあるのであります。家庭内で神権者として為すべきことは家庭内に真のキリスト教徒の原則と模範的な活動を打建てることであります。キリスト教精神の本質は愛であり、神権の真の力は愛であります。愛は家族の生活の栄えるに理想的な土地を備えます。愛は夫又は妻或は親か子供か一方側だけのことではありません。それはすべての家族の間に生長する平均したお互のものでなければなりません。

家庭を治めるに当っての神権

治めることはその団体に意義と指示を与えることです。治めるという言葉は舵をとること方向を定めることを規定し又は監督することに適用されます。家長のことに就て私たちは家族の生活を指示し規定する責任は彼にあると指摘しました。彼がそれをどのように為すかが最も大切であります。予言者ジョセフ・スミスは聖徒たちに自ら治める正しい原則を教えたと言った時に私たちにその鍵を与えてくれたのです。予言者は又或時に指摘しました。

〝神の政府は常に平和と団結と協力と能力と幸福を促進するものである〟（ジョセフ・フィールディング・スミス予言者ジョセフ・スミスの教え二四八頁）これが教会統治の目的であり家庭を治めるに当っても同様であります。

家庭は子供たちの心の中に福音の真理の錨を下ろす碇泊地であります。すべての人が自由意志を持っていることは真実であります。各人はその知識と経験と信仰と理解から彼自身の決心をすべきであります。律法の重要さを知りますが祝福は律法に生活することによってもたらされるのであります。実行が価値あるのです。神は決して正しい生活を見逃しません。若しも家長が神のみたまにそうていたら、その家族を導く為の特別な導きを受けることが出来ます。

忠実な末日聖徒にとって教会統治の機能の中で唯一の抑制的な作用は悪い決心の破壊的結果を充分に自覚し認識していることから来ます。前にも指摘したように真の善行というものは善悪を知って善を選ぶことであります。神権保持者及びその妻への大いなるチャレンジは二つの質問に表わされています。

貴方は貴方の家族に効果的な方法によって福音の真理を教えていますか？

貴方の実行は教会の標準に達していますか？

毎日両親はその子供たちに自然と生活のしかたを示しているのであります。彼らの為していることは言っていることより力があるのです。毎日の決心、行為、考えでさえがその子供たちに対し出生から成人になる迄、影響を及ぼしているのであります。

模範設置の或共通点

一、律法と秩序を尊重することは家庭環境の根底に置かれていることであります。若しも両親が交通規則に違反して捕えられなかったことを誇るなら彼は若い耳に悪がつかまえられることを提案しているのです。子供たちの律法を尊び、支持し、従う態度に修繕することの出来ない損害を与えたことになるのであります。

二、若しも知恵の言葉を家庭で教えるなら、健全な食物を選ぶことに注意するように、又これらのものすべてに知恵を働らかすように強調すべきであります。子供たちはそのような教えに近づくことによって健全な生活のよい結果を学ぶでしょう。これに反して若しも貴方の食器棚或は食卓の上に知恵の言葉にそぐわないものが置かれていたとしたら子供たちは変に思うでしょう。そして不必要な経験をする結果となるかも知れません。

三、正直は私たちの教えの内で第二、第三に置かれがちであります。貴方は疲れ切ってしまったかその他の理由で貴方の子供さんに玄関口か電話で貴方は不在だと答えるように提案したことがありますか？　盗みと嘘言で捕えられた若い罪人たちがコーヒーを差出された時非常にめんくらったそうです。そのコーヒーは知恵の言葉を破ることだったからであります。彼らにとっては知恵の言葉を破ることが不正直であることよりも重大であったのであります。これは極端な例であったと望みますが私たちの子供たちに対しての生活の模範に正直を規準としないなら、このようなことが起り得るのであります。

四、貴方の宗教的な礼拝の模範は単に日曜日の宗教的な行事に出席することのみに結ばれていますか？　或は又貴方の職場に於て家庭に在って貴方は敬虔な念を以て毎日貴方の家族の為に平和な還境をつくり出して居りますか？

五、貴方の愛の実行は家庭から始まって、貴方の隣人及び友人に拡大して居りますか？　貴方の家族の各人の福祉に就て貴方自身の為の福祉と同様に考えることは第一及び第二の大いなる誡命の適用の適切な始まりであります。愛は利己心と高慢と憎悪を克服します。それは人の心に平和と理解を満たします。人が隣人を愛することはその人が神を愛することの真の証であります。

〝説服と堅忍とにより〟

神性な目的に従って人がその家族を導くと言う復雑な任務はその人の信仰と福音に就ての理解の程度をはかるテストであります。神権の責任は非常に広大であります。

詩篇の作者は一二七篇の三節から五節に言って居ります。

〝見よ、子供たちは神から賜った嗣業であり……矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである〟

神と共同の造り主として子供たちをこの世にもたらした父親たち及び母親たちは霊の子たちの福祉と彼らが首尾よく神の許へ立戻れるようにすることに就て天父に責任を負っているのであります。

両親は家族員たちの生活に必要な物資に就て責任を持って居ります。教義と聖約八十三章四節に言っています。〝すべて子女たる者は丁年に達するまで養育の義務を両親に要求する権利を有す〟テモテ五章八節に私たちは次のような聖句を読みます〝もし、ある人がその親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合にはその信仰を捨てたことになるのであって不信者以上にわるい〟

けれども物質が最も大切なものではありません。教義と聖約六十八章の二十五節から二十六節に主は言って居られます。〝……子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし〟更に九三章四十節に〝されど、われは汝らの小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり〟

これらの教えは家族員たちの肉体的、知的及び霊的健全な生活を包含しているのであります。神性な計画を完成するすべての神権保持者に対し、説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とを以てするように指摘されているのであります。（教義と聖約一二一・三九―四六　四・六）この教訓は神権の含まれる活動とその機能に適用されます。これは確かに神権保持者の彼自身の家族の内に於ける行為をも含んで居ります。

結　論

結論として私たちは父親はその神権の召しを尊び愛と親切の内にその義務を果すことによって、正しく家長であるのであります。彼は又家庭は妻と共同のものであって彼女は神権のもたらす、すべての価値及び祝福を彼と分担するものであることをも認めるべきであります。

神権のほまれと栄えは神の栄光に対する真心を以てすべての義務を忠実に遂行することによってもたらされるものであることを理解すべきであります。

考察の為の考え

一、家族はメルケゼデク神権の恩恵を如何に分ち合うことが出来ますか？

二、末日聖徒の家庭に於ける妻及び母にとって、指導的立場は何ですか？

三、貴方の行動と生活の模範は生長する貴方の子供たちにとっていかに大切でありましょうか？

四、子供たちは如何に速くその親たちの態度に影響されるでしょうか？

参　照

教義と聖約　六十八章、八十三章、九十三章、百二十一章

モルモン経アルマ書五十三章

ウイッツオ・ジョン・エイ

神権と教会制度　第七章

〔9〕 氏名欄……戸籍法第十三条一項参照。戸籍内の各人の氏名がそれぞれ記載される。

（注）1　名未定の子についてはその追完届がある迄は空欄である。

（注）2　この欄に「無名」と記載されている者は、出生届出前に死亡した子をさす。

（注）3　名の記載には外国の文字を使用することは認められていない。

〔10〕 出生年月日欄……戸籍法第十三条二項参照。

出生年月日が記載される

（注）棄児の戸籍の記載は棄児発見調書にもとづいて推定によりて行なわれる。

（斎藤稔男）

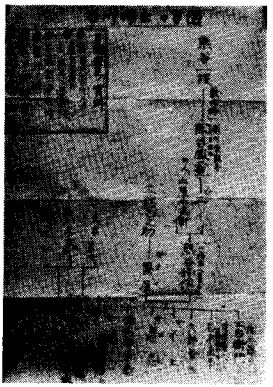
系図に関する資料

石川啄木の系図

明治末期の歌人である、啄木の名は現代に於てすら、青年の愛する所であります。彼が生存当時「明日（あす）の歌人」といはれた所以です。

貧しい一僧侶の子として生誕した彼が、僅か数ヶ年廿六才で、世に認められ、酬いられる事少くして死にましたが、彼の系図も又、ツイ最近に於て、一啄木研究家の探求に依って別図の通り明かにされました（関係者の生誕、死亡年月日略）

ここに皆さんの注意を促したいと思うのは系図発見の手がかりとなった、六種の資料の性質です。何れも系図研究の定石通りの記録を経て、この系図が得られた事に、御気づきと思います。啄木の歿後四十数年を経過した今日でも、このように或程度迄の系図は探がし出す事の出来る事実を、私達は改めて認識し、私達の希望を強め度いと存じます。



勝本について（其の四）

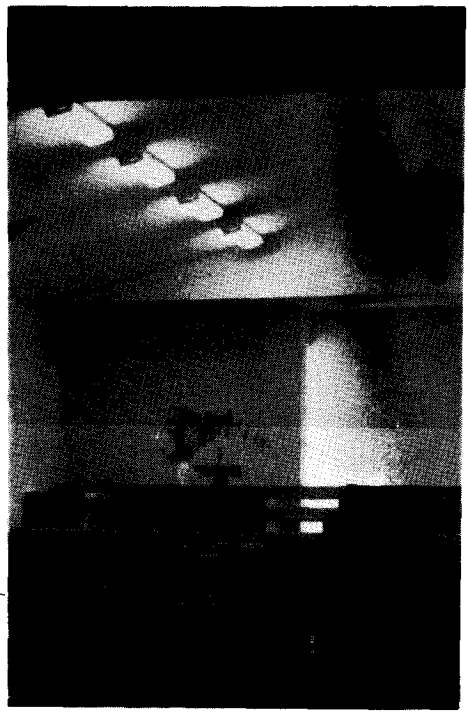
〔8〕 配偶者欄……戸籍法第十三条六項参照。

配偶者を有する者については、その婚姻届出によって婚姻の記載をする際に、特に夫又は妻が記載される。

（注）1　戸籍法第一二八条第一項による戸籍については新法施行直ちに配偶者のあるすべての者につき配偶欄の記載をすることは行なわず又従前の額書欄は削除することなく一応そのままにしておく。

およそすべてを感謝して受くる者には栄光を与えられん

教義と聖約　78：19



訪問教師のメッセージ

「教義と聖約」にもとずいて実践する真理

メッセージ　第58

目的　感謝の念はその人となりを大きく栄光あるものとし、友好的な精神を発散する事実を強調する。

感謝の気持に伴う祝福は私たちすべてに提供されて居ります。感謝の気持は貴く喜ばしいものであります。感謝の気持は心がまえであり、観点であります。その気持を持っている人は心が豊かに喜びに満ちて接する人の心を暖かくするものであります。

主は，およそすべてのを感謝して受くる者には栄光を与えられ、数百倍の祝福を受けるであろうと約束されました。これは疑いもなく感謝の態度の素晴らしい効果であります。

私たちが祝福を数えあげる時にそれらは私たちの眼に大きくうつって更に感謝の気持が湧いてくる事は確かです。感謝の態度は、友情活気と愛と謙遜とやわらかさと恵みを発散します。これらは、救主が望まれた性格で人がそれらを持っている時に豊かに祝福され地を嗣ぐ者となるであろうと云われたものであります。

ギリシャの哲学者プリュタークは次のように書いて居ります。神に最も受入れられる礼拝は感謝の念と明朗な気持からもたらされ

る〟（エドワーズ　有益な引用　六四一頁）

イサク、ワルトンは次のように言っています。〝神は二つの住家を持って居ります。一つは天上で他の一つはけんそんな感謝の心の中であります。〟（同上　六四一頁）

感謝の心はねぶみ出来ない宝ですが誰でもが持つこと出来るものであります。それは季節、年会、学識又は富などによるものでありません。他のすべての良い習慣と同様に、感謝の感度は一定の継続した実習によって、培って行くことが出来ます。私たちが常に如何なる場合にも感謝の気持を現わそうとするならば自然と感謝の態度が生長して来ます。

単に〝有難うございます〟と言う習慣は、その時間と努力は、いくらもかからないで、その言われる相手の人にとっては大きな意義があるのであります。若しも私たちが感謝の念からもたらされる豊かな祝福を望むならば私たちは家庭内の愛する者たちへ又友だちへ、又同様に天のお父さまに、その多くの祝福に対して感謝の意を表わす習慣を身につけねばなりません。

ヘンリーワードビーチャーは感謝の念の影響と伝播を次のように説明しています。

〝若し或人が私に一皿の砂を与えその中に鉄粒が入っていると言われた時、私はそれを探そうとして無器用な指でかき廻しても、それを探し出すことは出来ません。けれども私が磁石でそれを一掃する時、その磁石によって見えないような鉄屑迄、付着させます。感謝の念のない心は砂の中の私の指のように、何らの恵みをも発見しません。けれども感謝の心を以て一日を過すなら、磁石が鉄粒を見出したように、毎時間、何か天の祝福を見出すでありましょう。（探求　四五〇頁　ヒュービーブラウン管長引用）

若しも私たちが天の父なる神の愛にふさわしい者となるなら私たちの感度は御父の数え切れない祝福に対する感謝の念に溢れていなければなりません。私たちが持っているすべて、私たちの生命、才能、健康、救いの確信昇栄の望みは皆御父の恵みの賜であります。

予言者アルマはモルモン経の中ですすめし居ります。

〝私はあなたたちが謙遜……

肉体の上にも霊の上にも必要なものを願い求め、何物を受けてもいつも神に感謝をすることを望んでいる〟。（アルマ書七・二三）

天父の多くの祝福に対する感謝の念は、私たちお互の間の感謝の気持を成長させる基礎となります。これが豊かな栄えある生活の鍵であります。

告　アロン神権用語の変更

一九六四年六月四日付の大管長会からの公信によりアロン神権の用語中今迄使用していた

アロン神権—二十一才以下

アロン神権—二十一才以上

を次の通り変更しましたのでアロン神権関係者に周知徹底せられたい。

アロン神権—青少年

アロン神権—成人

伝道部扶助協会会長

柳田聰子

私達にとって頼もしい権能を持つ神権者達の、最近の目覚ましいブランチティーチングの活動を、皆様は御存知のことと思います。それと平行して励まされて来た扶助協会の家庭訪問はこの頃ではどの様に実施されているでしょうか。病める人を扶け、悩みある者悲しむ者を慰め元気づける訪問教師の姉妹達は灯を燭台の上にのせ、人々の前に輝かせる大切な任務を持った指導者です。アメリカの姉妹達が実行している扶助協会の活動は素晴しいと思います。それを思うと日本に於ける扶助協会はなかなか理想の域に達しられず、残念に思います。けれども人数の少い事を考え合わせれば、一人一人の実際に働く量は決して少いものではありません。むしろ一人で何人分かの責任を果して居られる姉妹達が驚く程沢山ある事と思います。私達のお慕いする天のお父様は公平にその働きを御照覧下さり、お喜び下さることと信じます。

扶助協会マガジンの七月号には、三才のウェイン坊やと、四才のブレンダお嬢ちゃんの二人連れの可愛らしい写真が載っています。彼等はいつも夫々のお母さんに連れられて扶助協会に出席しているので仲よしになっていて、二人でレッスンの載っている扶助協会の雑誌を持って家庭訪問をし、可愛い口でメッセージを伝えたという事です。訪問を受けたサンプソン夫妻はいつもなかなか外出できない人達なのだそうです。けれどもこんな可愛らしい訪問教師から一生懸命述べられた恐らく片言まじりの真理にどんなに心温められ、聖霊の助けもあって、大きな美しい感動を受けたことでしょう。そしてこの幼い子供達は何て可愛らしいのでしょう。誰でも愛さずには居られませんね。本当の扶助協会員である私達大人は、一層頑張ってこの慰めや励ましを配って歩く家庭訪問を続けましょう。

この記事を見て、尚私は考えました。

幼いから、八才以下だから、何もわからなくても仕方がない。わからない年齢なのだから少々人に迷惑をかけても、自分勝手に遊ばせておいて当然だと考え易い日本人の在来の弱点を、反省しなければならないと思いました。天から授った清らかな幼児の心に、自分の興味本位に行動する我儘な感慨を植えつけているのは、我々日本人の大人達であると。子供達が教会堂に対する概念、神様に対する観念を正しく持つ様にするのは、両親は勿論、接している大人達が皆協力してその責任を分担すべきではないでしょうか。

私はアンドラス前伝道部長、アンダーセン現伝導道長、テッド・プライス前副伝道部長の方々の御家庭に入ってその幼いお子様達と接した機会がありましたが、そのどの御家庭でもまだ幼い四、五才のお子さんが小さな仕事の責任を与えられていて、それを毎日必ず果すように躾けられて居られるのを拝見しました。そして、これだからしっかりした責任感のある独立した人格の人間が作られるのだとしみじみ感じました。そして大人にとって大した仕事でなく、それを大人がやってしまっても却って早く片附くようなことであっても、辛抱強く子供のする事を見守って居られる態度を、実に学ぶべきことと思って拝見しました。

規律正しい生活、与えられた仕事に対する責任感、そういうものが培われてこそ信頼出来るモルモンの青年男女が育成され、そのような人格を持った者こそ、その自由意志を正しく使う事ができ、大人になったら安心して何でも任せられる人となるのではないでしょうか。

私達は現在自分のなすべき仕事に忠実に勤勉に働き、それを通して自己完成に進まなければならないと同時に、天のお父様からお預りしている清らかな幼児達に頼もしいモルモンとして育つよう心を配り、実行する責任があると確信いたします。

そのようにして発展して行く可能性を考えると希望に胸がふくらんで来て、無心にみえる幼児達が一層いとしくなって来ます。

さあ、私達みんなで家庭訪問に励みましょう。そして同時にみんなでモルモンの子供達を育てましょう。

（565頁より）

に入れる為自分の貴重な物を全部売ってまでも御国の宝を買う人々の手で前よりもその勢は増すに違いありません。伝道部長は「建築を初めると人々の財政が豊かになって什分の一も増すようになる、手に豆が出来たかどうか次の大会で皆さまの働きを見ましょう」と云われました。会員一同素晴しい建築の奉仕に携わる事が出来るので至極感謝しています。

では全国の兄弟姉妹の皆さま次便までごきげんよう。どうぞ沖縄を訪ずれて下さい。

後記、この報告が遅れましたので建築模様をお知らせしますと末に作業は穴堀、地面コンクリート流し等基礎工事もほとんど終り宣教師館、礼拝堂とブロックを兄弟姉妹の手で積み上げているところです。皆は本当に喜んで働いています。又沖縄では津嘉山、古波、下地、面銘各長老が地許から出て働いており古波倉長老も数日前までその一人として活躍され新たに比嘉長老が召されました。

皆さん、毎日朝早くから本当に「ニーヘーデービル」（沖縄方言でありがとう）（原文のまま）（上田記）

as its definition; how it can be used in a sentence; or another word that means the same or a word that has opposite meaning.
For example:

1. swirling
2. sensation
3. accumulatad
4. distress
5. optimism

2. Suggested Special Activity:
   Try a debate such as —
   Resolved: Young peopre should be encouraged to date at an early age.
   Any other topic could be used; and it needn't consume a long period of time.

3rd Week

1. After reading and discussing this section have the students close their books. Ask questions about the contents of the story to tell whether or not they understand the meaning... e. g. ask questions that must be answered yes or no —— 1. Was this a winter experience? Or ask questions requiring an answer from the text: 1. Why were all the cars stopped?
2. Suggested Special Activity:
   Have a guest speaker or speakers talk on such things as "My Ideal in a Man" (a girl tells this) or a boy talks about "My Ideal in a Girl". Choose stuoents who have good English —— might he wise to have them prepare ahead of time and checked for errors by the teacher. Or have a missionary or two talk on these or related subjects and have a Japanese translate into Japanese. Or turn the class into round table discussion and discuss the Japanese and American viewpoints on dating or ideal man or woman and compare the differences of opinions

4th Week

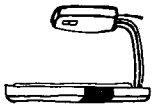
1. Read and discuss the section together. Have class close books and repeat each sentence after you. Have students pair off and spend about 10 — 15 minutes to practice reading the story aloud to each other softly. Discuss definitions of difficult words and phrases.
2. Suggested Special Activity:
   A. If possible have a married couple to participate in the class. If they are unable to speak English well enough have them speak in Japanese & either a missionary or Japanese translate it into English. They could tell the experiences they enjoyed together — how they met, where they were married etc. Or compare the differences in Japanese and American Weddings or marriages.
   B. Or show pictures of people actively engaged in an enjoyable sport or activity and have students tell a story about the picture... can be either one incident or a short story. Give them a few minutes to think about it or to write it, however you may wish to do it.
   Sing "Love At Home" in Japanese and English for variety.

light of a car. To diminish their worry and pass on an encouraging word was worth the walk over that icy and snow-laden road. After some more walking and checking, we finally found the car containing the baby we had set out to find. Her parents had run out of gas and they needed a blanket and apples. A car nearby carried a man who was quite ill, but we becided to leave him with his family for the time being rather than take the *risk* of carrying him over the ice and drifts.

A *highway patrolman* working his way down from ths *Continental Divide* could move no farther; so, before pushing his car around on the ice to enable him to continue the return journey, we contacted *Rock Springs* on his *short wave radio* and heard the welcome news that *bull-dozers* would break through in another hour. Spreading the glad tidings as we returned to the Junction, we saw the lights of our *rescuers* in the distance.

There was still the *task* of *hooking* on to each car and pulling it down the road and lining up the *caravan* for the *perilous descent* into Rock Springs, but the *pressure was off*, and what might have been a night of suffering and sorrow became a treasured experience to be told around the fireplace.

In memory, I see the faces of concerned parents. I hear the chattering of small voices, unaware of the *potential* danger; and view the *exuberance* of college students, good naturedly accepting their plight. But most important I remember how much a word of encouragement, a red apple, a blanket, and a few gallons of gasoline meant to so many people. I find mysel fasking, "Why can't we help each other like this *under less dramatic conditions*?" It takes so little to help so much. We are, indeed, our "brother's keeper."



English Plan for October

To the Missionaries:

Use this month as a question-answer (discussion) learning experience. Be sure and call for any questions the class may have.

The lessons will need advance preparation so before beginning is would be a good idea to read through the whole-month plan.

Be sure and invite the students to attend M.I.A.

1st Week

1. Read the story in English and have someone read it in Japanese. Read the first section and have the class repeat after you sentence by sentence. go Then through the whole story pronouncing one by one just the italicized words and have the class repear. Ask for any questions about the meaning of this part of the story or any of the words. Have each student one by one repeat after you a word or two.
2. Suggested Special Activity:

   Manners and Dating Discussion and Demonstration

   A. a fellow should help a gire on with her coat. The gire should walk over to her date hand him the coat from the top center neck seam and say, "Would you help me with my coat, please?"

   B. The fellow should be ready to open the door for the gire to go ahead of him. The girl should step to the casement side of the door, nearest the knob and wait. That way he won't have to ask her to move in order to open the door.

   C. In telephoning always identify yourserf when calling. It is nice to inquire if they have a moment to talk with you now. Be accurate in taking messages for others and follow through on delivering them.

   D. A gire wears gloves to keep her hands clean, and she removes them when she is eating. She needn't take them off to shake hands with someone.

   Have members or missionaries demonstrate the foregoing points of etiquette. Then help class members to practice these things.

2nd Week

1. Read and discuss the second part of the story Have the class repeat after you as you read sentence by sentece or phrase by phrase.

   Have a student tell all he knows about a word from the story such

English Plan for October

Apples, Blankets, and Gasoline

by L. Mark Neuberger

The snow was *swirling* across the highway with ever-increasing *velocity* as we drove cautiously across the familiar plains of Wyoming. We had left *Rawlins* in the morning with the expectation of having a leisurely ride home to *Logan, Utah*, with a possible side trip to *Flaming Gorge Dam* in northeastern *Utah*.

Always a busy *transcontinental* route, U. S. Highway 80 had more than its usual share of travelers as 300 *Utah State University fans* were *winding* their way homeward after attending a *football game* in *Laramie*. Suddenly, the car ahead came to an *abrupt* stop. Upon applying our brakes, we had the unpleasant *sensation* of sliding sled-like up to our neighbor's bumper. The storm had now turned into a real *blizzard*, and it was some 20 minutes before our son, Brian, and several other hardy souls *ventured* out to *investigate* the cause of our delay.

A large truck had *jackknifed* across the highway; *snowdrifts* had *accumulated* quickly, and hundreds of cars were backed up for miles. Those of us who were fortunate enough to be near the head of the line discovered *Thayer Junction*. Its small combination service station-grocery store was immediately *engulfed* by cold and *ftustrated* motorists. The students accepsed our *plight philosophically* and immediately started to entertain themselves with happy conversation and candy bars and an occasional game of *"Old Maid."* Throughout this ordeal, they conducted themselves in an *exemplary* manner, and *their youthful optimism gave assurance to all.*

The hours dragged on and the storm continued *unabated*. The store's *meager* supply of lunch meats was quickly exhausted and many people had to be content with a can of pork and beans and crackers. A few lingered in the store but the majority, including my ever-cheerful wife and I, returned to their cars and kept the motors and heaters running throughout the afternoon.

Anti-freeze was selling at a *premium*. As dusk began to fall, people within a mile of the Junction started to carry three- ane five-gallon cans of gasoline to their cars.

It was 7 p.m. and still no encouragement had come *via* the *party-line* telephone, which was usually in the hands of the other parties.

A *distress* call, passed by word of mouth down the miles of cars, reached the Junction. It was reported that a young family with a two-month-old baby had run out of gas about three miles up the line. Eight of us borrowed coats and boots and started out on what was to be a rewarding *expedition*. Carrying cans of gasoline and blankets, we started up the road. Not knowing when we might expect relief, we decided to check the condition of the passengers in each car.

The briver of the first car said, "I have two *bushels* of apples in my trunk and you are welcome to take as many as you can carry." Accepting this generous offer, we filled our pockets and a large paper sack and continued our *mission*.

The conversation with the *occupants* of each car went something like this: "How much gas do you have?" The answers ranged from near empty to one half of a tank.

"Help is on the way but it may be several hours before it arrives. Run your motor for 15 minutes and turn it off for ten and be sure to open your window a bit each time you start the motor because the drifting snow might *plug* your car's *exhaust pipe* between starts and *subject* you to *monoxide fumes*."

Next question: "Have you any food?" Seventyfive per cent said "no"; and to those weary souls, an apple was like *manna from heaven*. Expressions of concern now became partially *relaxed* and almost everyone seemed to feel that it would be possible to make it through the night if necessary.

We *trudged* on. In one car was a baby in a crib. In another we found a young family of five children, ranging in ages from six months to nine years of age. Coming from the *warmer climes of Texas*, they were not dressed for this occasion so we left apples, a blanket, and three gallons of gas. To an elderly couple (the wife unable to walk because of *paralysis*) we left *fuel* aub made arrangements for her to be *transferred* to the cab of a *semitrailer-truck* if the supply *bwindled* again.

Eager faces appeared in the dim light of our flashlights or the *dome*

○お知らせ○

▽MIA事務局
東京都練馬区春日町一ノ二六一〇
電(992)八八五六

佐藤襄二
佐藤栄子

なおMIAの昭和四十年度カレンダーが一部三十円で販売中です。右に申し込み下さい。

▽原稿締切り日が早くなりました。
毎月二十日までに届く原稿を載せあとは次号にまわすことにします。期日にまにあうようにお願いします。

▽写真（ネガはダメ）カットを送って下さい。

編集後記

▼今夏、東京の暑さは水キキンとあわせ東京サバクという新語までしのび寄っていました。まさに、秋来ぬと目にはさやかに……です。やがて収獲の時期を迎えようとしています。

▼さて今まで「聖徒の道」を今日の姿にまで育てて下さった小林兄弟がこのほどめでたく入社されました。彼の今後の奮闘を祈りたいと思います。

▼代って私が「聖徒の道」を担当することになりました。これからもみなさまの「聖徒の道」として成長したいと思います。みなさまの御協力をお願い致します。

（松浦記）

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円
教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円
モルモン経（新訳）……300円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
料理の作り方……50円
求道者教育法……120円
神の王国……230円
イエス・キリスト……300円

日曜学校用

モルモン経物語……150円
旧約聖書物語……150円
家族の昇栄……200円
福音の実践……200円
奇しきみわざ(上)(下)……200円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

我ら指導者のことば……200円
我らは信じる……200円
我らは奉仕する……150円
生活の目標……150円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円
素晴しき考え……200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
レクリェーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

THE SEITO NO MICHI
Volume 8, October 1964, Number 10
THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION
14 Azabuhiroo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂
電話（二―一五四五）

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二―八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目
電話（六三―七八六六）

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市同心町六一二

新潟　新潟市中大畑町五五七
電話（二―八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（二五―〇八九七）

東京中央　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇八―三三〇七）

東京北　東京都中野区江原町一ノ八ノ十四

東京東　東京都江戸川区小岩町六―七八〇
電話（六五七―五二二三）

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七二九―六三一一）

東京西　東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七ノ一九
電話（二―六七六四）

山形　山形市七日町二丁目十二ノ二十三

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九―八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六二一―八三二七）

福岡　福岡市浄水町四六

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話（三一―六一三五）

金沢　金沢市上胡桃町一一

京都　京都市左京区下鴨東半木町　河合方

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三―四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五―〇一四一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二―一二三六）

岡山　岡山市北方七〇

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六―二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

佐世保　長崎県佐世保市山手町

建築部事務所　TAIKEI HOUSE CO., LTD.

沖縄地方部

普天間　沖縄宣野湾市野嵩区三三八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九
東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二―四〇一〇）

聖徒の道

1964年10月1日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14
印刷所　合名会社　三五堂